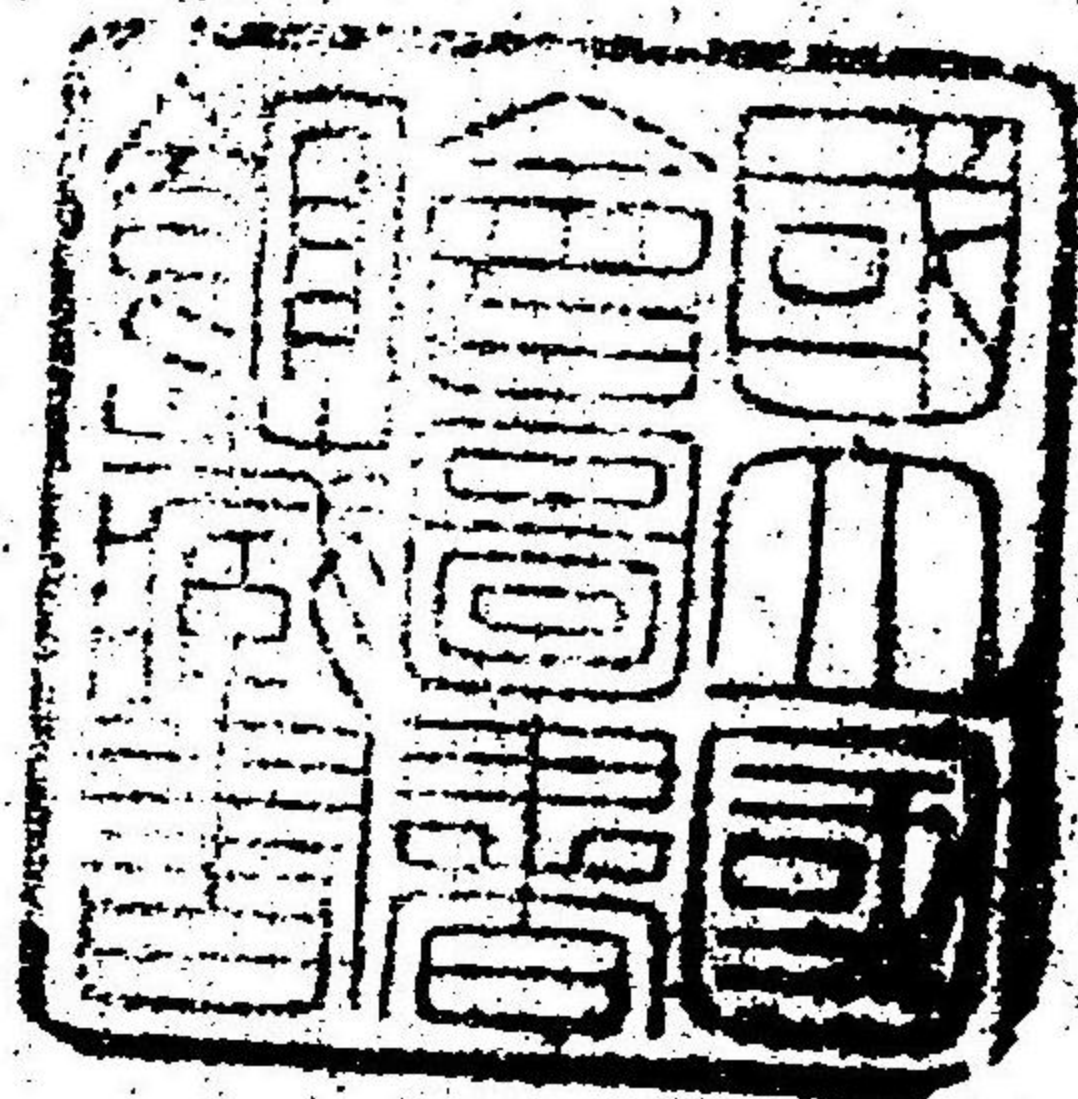
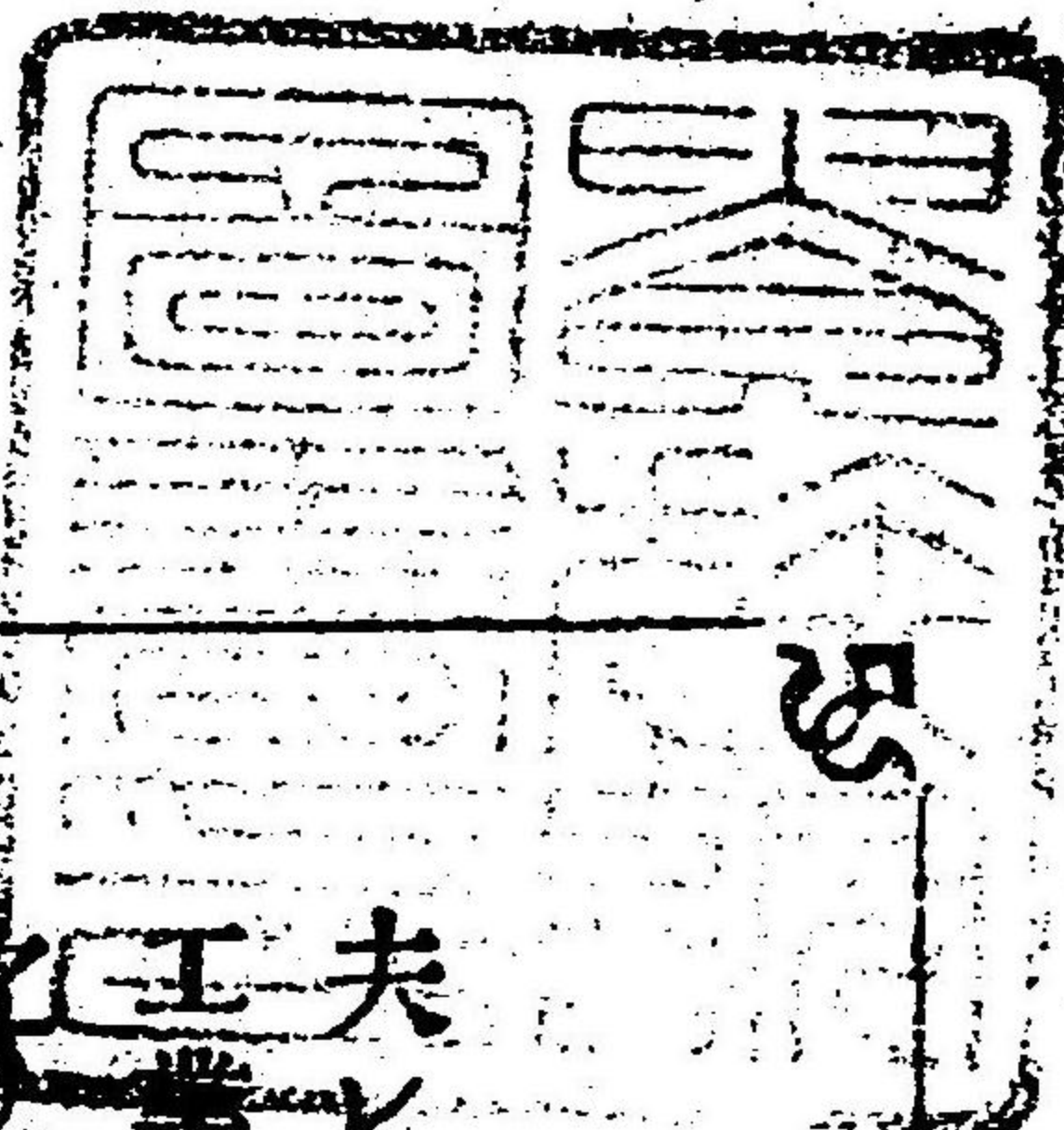


W352  
5



45. 6. 13  
831089



夫萬國大博覽會ノ用タルヤ博ク各國ノ所爲ヲ察シ制規學藝ヨリ  
工業機械等ニ至ル迄其進歩改新日ニ精良ニ趨クノ狀ヲ視テ親シク  
列品ニ徴シ深ク之ヲ著論ニ考ヘ其所長ヲ探リ之ヲ我國ニ資益  
スルニ在リ我事務局嚮ニ澳國博覽會ニ在ルノ日採集スル所ノ諸書  
ヲ譯成シ政府ニ上ツル者若干冊皆之ヲ印刷ニ附シ題スルニ澳國博  
覽會報告書ヲ以テシ各省使廳府縣ニ頒送シ其餘ヲ發賣シ遍ク全國  
ニ報知スルノ意ヲ表セントス然レモ其措採蒐集スルノ指ヲ示サ  
レハ人其要領ノ在ル所ヲ認視スル能ハス而シテ元副總裁佐野氏ノ  
報告書之ヲ舉述スル詳カナリ故ニ今併セテ之ヲ印刷シ各部ノ首ニ  
掲ケ以テ其序言ニ代フト云フ

明治八年八月

元澳國博覽會事務官



凡例

一此書ハ種々ノ書籍或ハ新聞紙等ヨリ輯譯レ  
譯方皆原文ノ体裁ニヨル故ニ各篇各種ノ體  
裁アルヲ免レヌ例ヘハ邦州會議ノ憲法ハ問  
答文體ヲナシ答澳地利拔譯ス國議院ノ憲法ハ  
律令書法ヲナスカ如キ是ナリ澳地利抄譯ス  
看官之ヲ諒セ

東條一郎識

議院開式ノ報告書

臣常民嚮ニ澳伊兩國辨理公使ノ命ヲ忝シ歐州  
ニ航渡シ會々澳國民選議院開式ノ席ニ蒞ミ親  
シク其儀式ヲ觀又皇帝議院ニ下ス所ノ勅語ヲ  
聽ケリ蓋シ其旨趣タル國是ヲ定メンカ爲メ開  
院中マサニ議スヘキノ要目ヲ擧ケ之ヲ議官ニ  
下スニ在リ而シテ閉院ノ日ニ於テ其既ニ議決  
シテ勅可スル者及ヒ勅可シテ施行スル者其未  
タ議決セサル者若クハ再議スヘキ者等ノ要件  
ヲ條列シ皇帝又之ヲ議官ニ示シ以テ閉院ノ式



ナ終フ是ヲ以テ其終始秩然トシテ序アリ以テ  
 國歩ノ進度何如政績ノ効課何如ヲ通視スルヲ  
 得要ニシテ且ツ悉セリト謂フヘキナリ退イテ  
 各國ノ制ヲ按スルニ英佛獨伊並ニ然リ譯シテ  
 別冊ニ在リ皆能ク國勢ヲ計リ時機ヲ察シ各國  
 ノ交誼如何ヲ徵シ商量斟酌各其當ヲ得タリ臣  
 以爲ラク立憲政治ト共和政治トヲ問ハス其帝  
 王タリ大統領タル者此ノ如クニシテ始メテ能  
 ク一國ヲ統治スルノ任ニ稱ヘリト夫歐洲議院  
 ノ開式タル猶我政事始ニ於ルカ如シ窺カニ我

國政始ノ式ヲ見ルニ諸省長官各奏事ヲ上ツリ  
 其掌管ノ事務ヲ陳ス多クハ前年ノ遂事ニシテ  
 本年ノ施業ニ及フモノ稀ナリ又 聖上諸官ニ  
 責付スルノ親勅アルヲ聞カス臣愚以爲ラク否  
 ラスト夫前年ノ事業タル既ニ考課狀ノ設アル  
 アリ必シモ政始ノ日ヲ以テ奏上セス况ンヤ皇  
 國ノ國體タル君民一體猶一家ノ父子アルカ如  
 ク 聖上之カ主宰タリ萬機ノ事一ニ宸裁ヲ仰  
 ク故ニ政始ノ日ニ於テ 聖上親シク一歲中國  
 憲ノ議スヘキ者及ヒ施業上方法ノ行フヘキ者



ト並ニ其議政行政兩務ノ綱領ヲ提ケ之ヲ諸院  
 省ノ長官ニ勅付シ各其所任ヲ主行セシメ歳末  
 其績ヲ考ヘ其成否ヲ責メハ則チ網紀一ニ出ル  
 ノ體裁ヲ失ハス其終始ヲ全ウシ國是ノ舉ル亦  
 欽望シテ俟ツヘキナリ仰キ望ムラクハ歐洲ノ  
 制ヲ參酌シ其式ヲ釐正アラント今歐洲各國  
 議院開式一卷並附錄二卷譯成ル謹テ上進シ併  
 セテ奏ス

明治八年

辨理公使佐野常民

目次

- 一 千八百七十三年 澳國上下議院開式勅語 附席叙圖
- 一 同年 普國伯林議院開式勅語
- 一 千八百七十四年 獨國民選議院開式并閉會勅語 附論說
- 一 同年十月 同國同院開式勅語
- 一 千八百七十三年 佛國ベルサイ府議院開式告文
- 一 千八百七十四年 同國巴里府議院開式告文



千八百七十三年 伊國羅馬議院開式勅語 附議員答詞

千八百七十四年 同國同院開式勅語

千八百七十四年 英國議院閉會勅語

千八百七十五年 同國同院開式勅語

附錄

澳國議院憲法并千八百七十四年同議院ノ景況概畧 一册

澳洪兩部共議院ノ緣故并千八百七十四年議事ノ景況 一册

千八百七拾三年十一月五日澳地利國議

院ノ發會式國議院ニ分上下

議員等皇宮ノ禮式堂ニ參集シ右側ニ上院ノ議

員左側ニ下院ノ議員列席ス席若シ不足スレハ

上院議員ノ後席ニ列ス但シ帝ノ坐ノ位置ヲ以

廣堂ノ中央一道ヲ空フシ皇帝陛下ノ通路トス

○各議員席定ルノ後之ヲ皇帝陛下ニ奏シ然ル

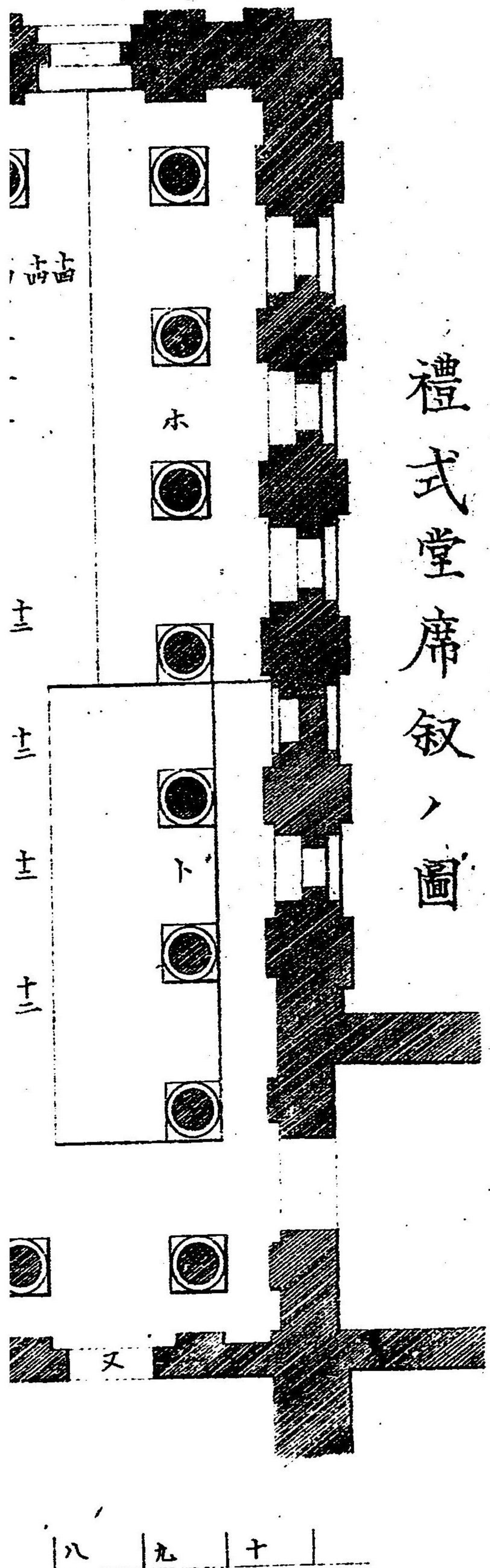
後皇帝陛下宰臣及ヒ諸親王并ニ宮内事務總理

等ヲ先導タラシメ其他諸隊長及ヒ待從長等ヲ

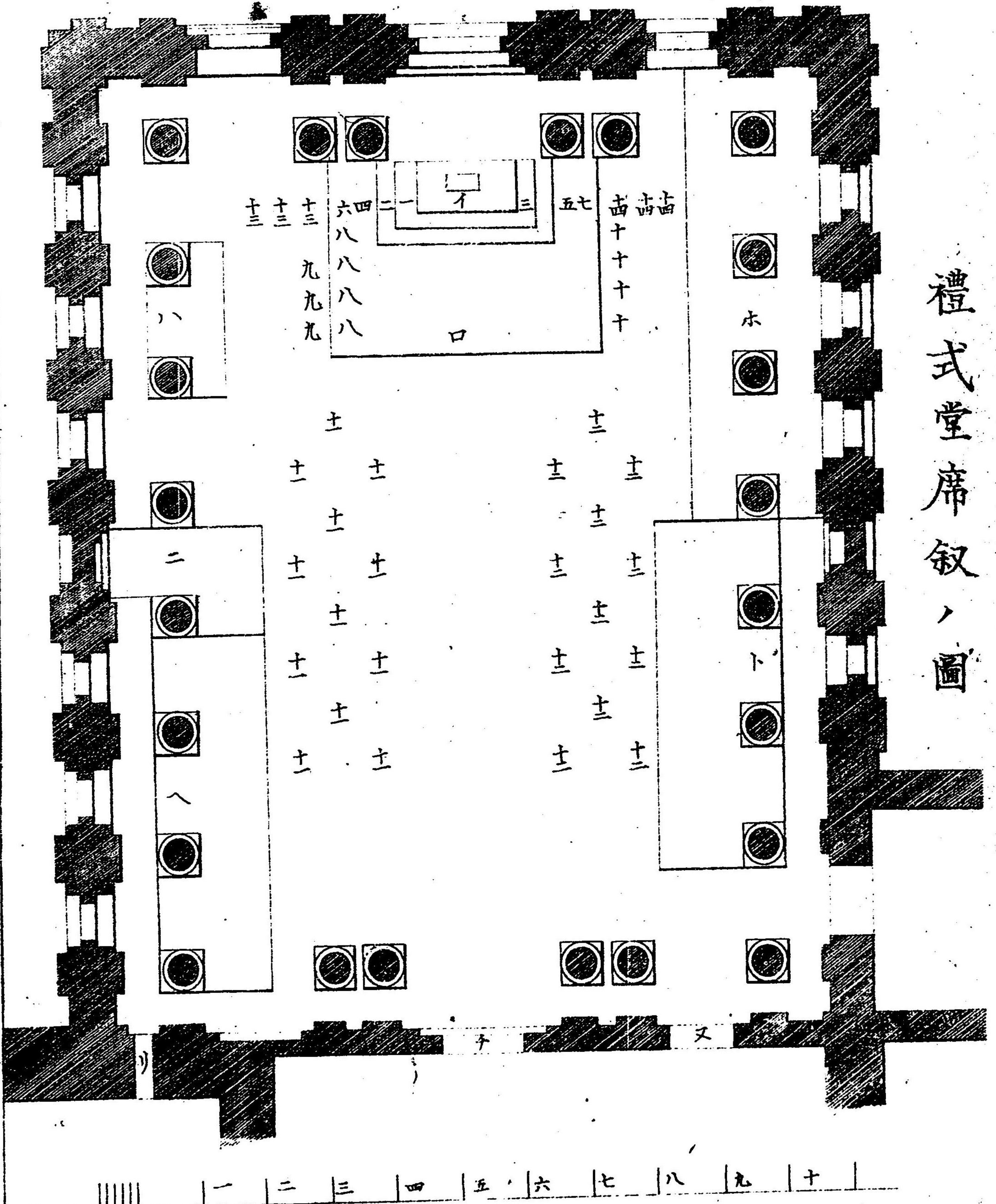


從へ禮式堂ニ臨ム  
 皇帝陛下禮式ノ堂ニ臨メル時宮外ニ備フル所  
 ノ軍隊祝砲ヲ放テ又同時ヨリ禮式ヲ終ルニ至  
 ル迄祝鐘ヲ鳴ラス  
 宰臣等ハ帝坐ノ周圍ニアル高坐ノ左側ニ列シ  
 諸親王ハ周圍高坐ノ上ニ列シ其他庭臣及ヒ隊  
 長等ハ陸上ニ列ス  
 皇帝陛下玉坐ニ著キ冠ヲ戴キ開式ノ勅語ヲ下  
 ス  
 右禮式ヲ畢テ後皇帝陛下禮式ノ堂ヲ退御ス

禮式堂席叙ノ圖



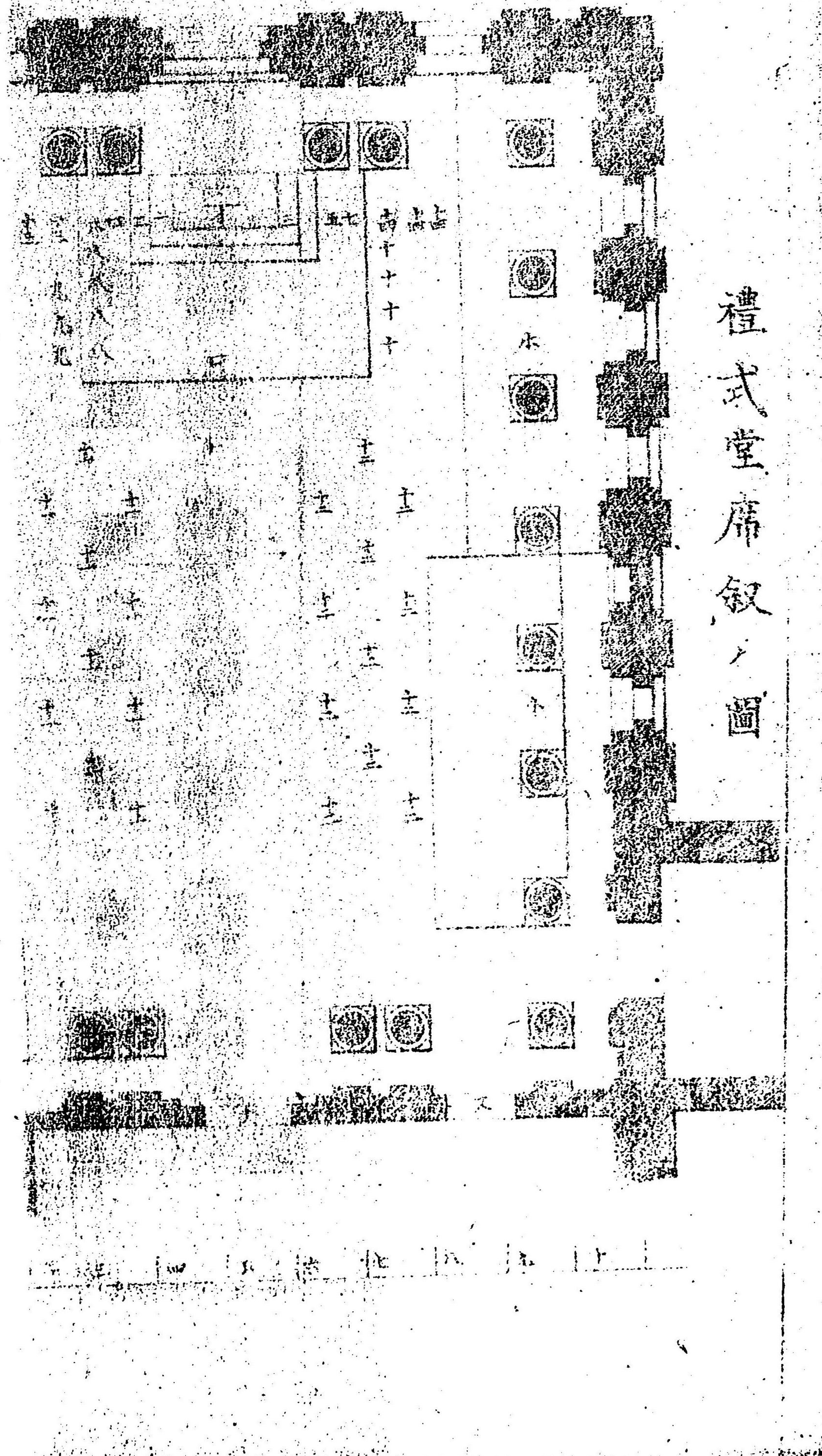




長等ノ階上ニ座ス  
 皇帝陛下玉坐ニ著キ冠ヲ戴キ開式ノ勅語ヲ下  
 ス  
 右禮式ヲ畢テ後皇帝陛下禮式ノ堂ヲ退御ス

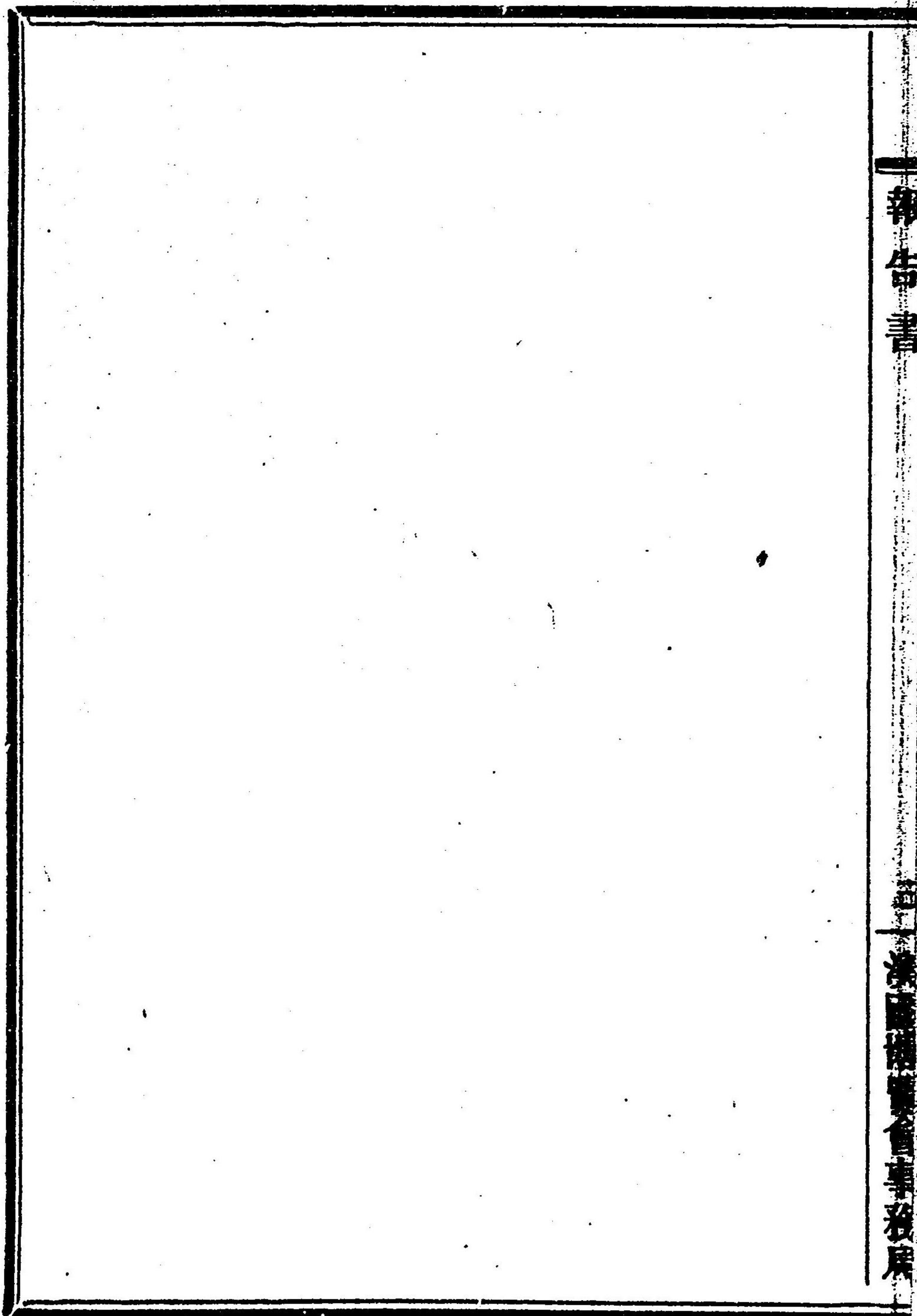


禮式堂席叙ノ圖



此時大小ノ祝砲ヲ發ス  
左ニ禮式堂席叙ノ圖ヲ示ス





右席叙ノ譯解

- イ 玉坐
- ロ 玉座ノ周圍高キ場所
- ハ 朝官ノ列席スル高坐
- ニ 貴人ノ高坐
- ホ 各國交際官員高坐
- ヘ 平民ノ高坐
- ト 同
- チ 大入口
- リ へ號高坐ノ入口



又 ホト號高坐ノ入口

- 一 官内役長
- 二 官内事務總理
- 三 侍從長
- 四 王國洪葛利近衛兵ノ甲必丹
- 五 「トラバンテン」近衛兵ノ長官
- 六 「イスカトロン」近衛騎兵ノ甲必丹
- 七 「ケチラール、アドユダント」
- 八 諸親王

九 諸親王殿中事務總理

十 宰臣シニスター

十一 上院ノ議官

十二 下院ノ議官

十三 砲隊近衛兵

十四 洪葛利ノ近衛兵

以上

同日發會ノ席ニ於テ皇帝陛下議官ニ下ヌ所ノ勅語



今般兩院ノ議官邦家ニ報ユル志ヲ以テ爰ニ集會スルハ朕カ深ク謝スル所ナリ人民ノ直選スル議員ヲ徵シ政體ノ急務ヲ議スルハ是博ク國ノ衆議ヲ盡シ昔ク諸部ノ願望ヲ言ハシムルノ基礎ヲ建ツル所以ナリ冀クハ諸議官拔群ノ秀才ヲ以テ同力協心朕ヲ補佐シテ政體ノ柱石ヲ確立セシメ開化ノ進歩ヲ速ニシ各州人種ノ異ナルニ關セスカチ一ニシテ共ニ報國ノ心ヲ存シ國祚ノ永久邦運ノ安寧ナランヲ欲ス今經濟方ヲ鼓舞振動スヘキノ際ニ當リ金銀并

漢ハ歐洲ノ中心ニ  
位シ各地方人類ヲ  
異シ動カスレハ人  
類各黨ヲ結ビ相和  
セサルノ憂アリ

ニ金銀證券ノ相場ヲ貴フスル事ニ付人民生活上ノ經濟法如何ンシテ可ナラン歟朕カ政府法律ニ因リ其理務ヲ擔當シテ大ニ貿易工業ニ思ヲ勞シ弊ヲ未然ニ防カント欲ス國律ノ第十四章ニ掲載シタル條々ニ付議官ノ熟案ヲ乞ヒ人望ヲ振起シ經濟ノ本源ヲ窮メ貿易ノ根蒂ヲ固フセンヲ欲ス政府ノ議案ニヨリテ節儉方ヲ實地ニ行ヒ國ヲ富スノ策ヲ議セララルベシ分頭稅ノ法律ヲ執行スル爲メ議官等ノ議案ヲ



要シ且ツ物品税ノ法律ニ付既ニ建議セル件々  
ヲ熟議スベシ  
國立銀行ニ於テ後來ノ規則ヲ立テ格幣ヲ正貨  
ニ交換スル良法ノ目的ヲ建ツベキ事  
方今ニ適當ナル人民經濟ノ法ヲ定ル爲メ朕カ  
政府ニテ爰ニ議案ヲ設クベシ以テ合本會社及  
ヒ通商社ノ法律ヲ改メ工業鐵道ノ規則ヲ定メ  
國內ノ原質物ヲ以テ物品ヲ製造シ成スヲ盛  
大ニセント欲ス  
羅馬政堂ト取結ビタル契約ヲ廢センヲニ付加

特力基教會ト政府トノ際ニ於ケル法律ノ欠事  
ヲ補スル律案ハ議官等ノ熟議アラント欲ス  
○刑律及ヒ教律ヲ改革シ方正ナル國憲ヲ確立  
スルハ朕カ政府ノ最要用トスル課目ナリ速ニ  
之ヲ決議シ其實功ヲ奏セラルハ朕カ希望ス  
ル所ナリ  
前ノ集議ニ於テ討論ヲ了ラサリシ所ノ主宰裁  
判所ヲ置クノ法律ヲ論定セラルベシ  
老兵及ヒ病兵ヲ保恤シ常備兵ヲ布置シ國中へ  
巡邏兵ヲ設置ク等ニ關スル律案ヲ朕カ政府ヨ



リ出下スヘン  
 我國博覽會ヲ設ルノ舉タル實ニ易事ニアラス  
 ト雖<sub>レ</sub>以テ邦家ノ繁榮ヲ四方ニ輝シテ人民ノ  
 經濟開化ノ進步ニ裨益ヲナシ工業ノ發明ヲ進  
 ムルヲ得萬國感謝スル所ナリ朕ト諸官ト此  
 功勳ヲ共ニスルヲ得大ニ愛國ノ襟衷ヲ慰メ欣  
 然ノ至ナリ  
 四隣遠國ノ帝王侯伯朕カ萬國博覽會ヲ來觀シ  
 隨テ交誼一層ノ親睦ヲ添ヘ太平ノ兆ヲトシ大  
 ニ邦家ノ榮ヲ見ハセリ

近來澳國騷亂相踵キ前虎後狼ノ國難アリト雖  
 正方今靜謐ニ歸シ人民各其處ヲ得全澳國ノ民  
 心一和一力駭乎トシテ正法自由ノ國體ニ進メ  
 リ朕更ニ諸議官ノ朕カ深意ヲ體認シ同心協力  
 ナ主トシ朕カ不逮ヲ補佐シテ國ノ爲メ其力ヲ  
 斷マサランヲ希望ス

東條 一郎 譯



伯林ノ議院開式ノ抄譯

千八百七十三年十一月十二日十二時伯林ノ皇  
官「ウワイセンザロン」ニ於テ議院ノ開式アリ兩  
議院ノ議官皆此ニ會セリ議員中新官アリ舊官  
アリ大禮服ヲ著スルモノ少ク小禮服ヲ著スル  
者多シ

正十二時政院副總裁「カンハフセン」氏及ヒ宰臣  
「グラーフ、イウンブルグ」氏「ドクトル、ロンバル  
ト」氏「ドクトル、フアルク」氏并ニ「ドクトル、アヘン



パツヒ氏等玉座ノ左側ニ列シ一禮了リシ後宰  
 臣「カンハブセン」氏皇帝陛下ニ代リ左ノ勅語ヲ  
 讀ム  
 獨逸皇帝兼普王陛下自ラ此開式ニ臨ム能ハザ  
 ルニヨリ臣ニ委スルニ開式ノ全權ヲ以テス臣  
 謹ンテ皇帝陛下ニ代リ兩議院敬愛ノ諸君ニ陳  
 ス  
 議院ノ補助ニヨリ國家ノ重務ヲ遂ケ開化ヲ進  
 歩セシムルハ我政府ノ深ク希望スル所ナリ諸  
 君其深意ヲ體セヨ皇帝陛下亦此集議ニ於テ決

定スル所ノ法律ヲ許允シ此ヲ施行セント欲ス  
 明年千八百七十四年歳用ノ預算ヲ見ルニ普國  
 ノ政府財資ノ宜キヲ得ルハ諸君ノ所知ニテ昨  
 年來國債次第ニ減シ殘資以テ從前ノ不足ヲ補  
 償スルヲ得タリ  
 下級人民ノ租稅ヲ緩フスル爲メ明年ニ至リ其  
 稅額ヲ減シ又物件製造ノ給料ヲ貴フスルカ爲  
 メ歳費ヲ増スト雖モ國用以テ之ニ充ツルニ足  
 レリ  
 貿易一般ノ景況ヲ改ル爲メ豫メ若干ノ金額ヲ



備へ諸川ノ船路ヲ開キ新渠ヲ鑿タンヲ要ス  
 ○政府兩議院ト熟議シ下命シタル鐵道築造檢  
 査官ヨリ建言ノ趣旨ヲ議決シ又其築造ノ弊事  
 ナ除クヲ要ス  
 昨年ノ議院ニ於テ議セシ處ノ土地家屋等ノ持  
 主ニ對シテ法律ヲ定メシ後更ニ持主ノ後見人  
 ノ對シテノ定律及ヒ持主ヲ止ムル者ニ對シテ  
 ノ規則ヲ議定セント欲ス  
 政府ニ於テ嘗テ目的ヲ立テシ如ク東方ノ五部  
 ナ一和セシメン事ヲ欲ス

此度會議セシ内國ノ法律ハ明年「スターツ、セル  
 ブスト、フルワルトウング」政府ニ不關市法中則ニ  
 法一般ニ行レシ後ニ於テ之ヲ議定セントス以  
 前ノ會議ニ於テ審定セシ政府ト寺院トノ間ニ  
 關スル法律ニ對シ羅馬加特力基ノ僧徒屢々之  
 ニ抗低セリ然レモ其法ヲ設クル固ヨリ僧徒ノ  
 身ヲ害スルノ意ニ非ス故ニ僧徒ノ激論ヲ顧ミ  
 ス其法律ヲ施行シ若シ之ニ抗スル者アラハ之  
 ナ罪ニ處スヘシ此法律ヲ施行スルニモ專ラ議  
 院ノ贊成アラント欲ス大事ヲ遂クル固ヨリ



之ニ抗スル者ナクシテ平易ニ之ヲ行フ能ハサ  
 ランカ  
 院議政府ト一致シ力ヲ邦家ノ急務ニ勞ズルノ  
 功ハ普國ノ歴史及ヒ議院ノ記事等ヲ以テ證ト  
 ナスヘシ

我政府議院ト共ニ力ヲ國事ニ勞スルヲ知ル  
 ノ徒ハ方今定律ノ是非黑白ヲ亮知スルヲ得ル  
 ナラン庶幾クハ諸君深ク愛國ノ意ヲ體シ國家  
 ノ事務ヲ熟議アラント欲ス以上ハ臣カ皇帝  
 陛下ノ委托セル全權ヲ以テ議院ヲ開キ行フノ

要義ナリ

此時議官等皆手ヲ舉ケテ善ト叫ヒ上院ノ議長  
 グラーフロット氏「ホーヒ」高ト唱ヘリ

東條 一郎 譯



千八百七拾四年二月五日伯林ニ於テ民  
選議院ノ發會アリ「ビスマルク」侯開會ノ

勅語ヲ陳ル左ノ如シ

惜ムラクハ我至尊皇帝陛下親ラ此發會ニ臨ム  
不能因テ卑官ビスマルク皇帝陛下ノ委託ヲ  
辱ウシテ此席ニ出頭シ謹テ皇帝陛下及ヒ聯邦  
政府ノ名ヲ以テ第二會民選議院發會ノ勅語ヲ  
敬愛ノ諸君ニ陳ス前ノ會議ニ於テ既ニ我獨逸  
國維新ノ政體及ヒ近年戰爭後ニ關スル制度ヲ



討論セリ今此制度遍ク我南北ノ聯邦ニ行ハレ  
 一般ノ經濟宜キヲ得テ國體ノ蒂根固ク且ツ軍  
 費ノ償金ヲ定約ノ通り収納シ得曾テ獨逸ヲ離  
 レシ所ノ舊領「イルンハツ、ロフ」「フランクフル  
 ト」ノ盟約ニヨリ再ヒ又版圖ニ歸シ今般初テ代  
 議士ヲシテ此會ニ出サシメタリ抑今般我諸君  
 此會議ニ於テ第一ニ討論スヘキ事ハ既ニ少シ  
 ク前ノ會議ニ於テ揭ケ論セシ全國均一ノ兵律  
 ナ論定スルニ在リ今其規則ヲ定メ獨逸ノ兵備  
 ナ増張シ殊ニ又各聯邦一致シテ徵兵ノ定則ヲ

確定シ國力ヲ皇張シ邦家ヲ安靜ニ維持スルハ  
 實ニ緊要ナル急務ナリ○近年ノ戰爭以來定メ  
 置キシ所ノ廢兵保護ノ規律未タ其善ヲ盡スト  
 謂フベカラス因テ今般之ヲ討論シテ其弊事ヲ  
 除キ去リ且ツ近年ノ戰爭中定メシ所ノ北獨逸  
 兵備ノ法律ニ照シ一般平等ノ法則ヲ立ツヘキ  
 ナリ  
 歳入清算ノ事ニ付未タ全ク宜キヲ得ルノ規則  
 アラス因テ今般歳入出管理ノ方及ヒ會計檢査  
 寮「レヒ、ホ、フ」ノ規則ヲ論定シ各聯邦ノ欠事ヲ



補ヒ且ツ千八百六拾七年ヨリ同七拾年迄ノ歳  
用清算ノ事ヲ議定スヘキナリ  
前年聯邦議院「フロント」并ニ民選議院ニ於テ既  
ニ掲ケ論セシ所ノ出版書籍ノ法律ハ實ニ緊要  
ナルモノニシテ疑ヲ容レサル所ナリ聯邦ノ政  
府皆普王ノ定メシ所ノ規則ニ一致シ以テ出版  
書籍ノ公益邦家ニ損害ナキ事ヲ得タリ  
今般工業ノ法律ヲ添ヘ論シ職工ト統領トノ際  
ニ於ケル爭論ヲ除キ大法ニ因テ之ヲ公處シ雙  
方宜キヲ得テ猥ニ條約ヲ破ル事等ノ憂ヲ除キ

去ルヘキナリ  
獨逸國ノ海岸ニ於テ沈溺ノ者并ニ荷物等ヲ保  
護スルノ規則ヲ改革シ聯邦中同一ノ制度ヲ論  
定セララルヘキナリ  
前年歳用ノ清算未タ全ク備ハリ了ラスト雖モ  
前年ノ歳入非常ノ餘金アリテ前ノ會議ニ於テ  
論決セシ歳出ヲ引去ルモ尙餘リアルハ不俟言  
所ナリ  
當今外國トノ交際ニ於ケルヤ外國ノ政府モ我  
國ト共ニ四海ノ泰平ヲ祈リ曾テ世ノ動搖ヲ欲



セサルハ今此ニ保證スル所ナリ卑官謹テ各國  
 並立ノ政府及ヒ我太平ヲ愛スル所ノ人民ニ對  
 シ我皇帝陛下永ク昇平ヲ保タントスルノ深意  
 ナ表スルナリ

東條 一郎 譯

千八百七十四年四月廿五日午後伯林ノ  
 民選議院ニ於テ「イルサツ、ロートレンク」  
 ナ管御スル法律ヲ議シ「シモニス」氏右ノ  
 法律ニ付一時許ノ長論ヲ述ヘ此ヲ結末  
 ノ議事トナス

同廿六日伯林ノ民選議院ニ閉會ノ禮式アリ議  
 官百五十員出頭アリ佛蘭西。澳地利。土耳其。并ニ  
 其他ノ諸公使交際官ノ席ニ列セリ聯邦議院ノ  
 議官等議長「デルフリッ」氏ヲ先ニシ玉座ノ左



傍ニ列シ皇太子「カール」及ヒ「フリードリツキ、カール」等皇帝陛下ニ從テ臨席アリ此時議院ノ議長皇帝陛下ノ高德ヲ敬贊セリ

皇帝陛下左ノ勅語ヲ下ス

敬愛ノ議官深ク朕カ意ヲ體認シ例ニ仍テ立法ノ急務ヲ議シ聯邦希望スル所ノ兵律ヲ議決シ以テ朕カ本邦ヲ保護シ全歐州ノ昇平ヲトセリ  
○邦家ノ大憲ヲ確乎タラシメ今般ノ新律ニ闔國一致スルカ爲メ聯邦ノ政府ニ於テモ常備兵ノ規則ニ承服スルヲ保證セリ議官等如斯ク皆

此規則ノ良法ナルヲ保證シ軍務ノ論議ニ盡力シ法憲ノ活動ヲ國內ニ輝カシ以テ兵ヲ選フノ法則歲用ノ規律ヲ確立シ獨逸ノ兵力ヲ強大ナラシム

諸議官皆愛國ノ心ヲ以テ海陸軍ノ廢兵ヲ護スルノ法則ニ付其欠事ヲ補シ且ツ議官等本邦ノ軍務ニ每々大ニ盡力アルハ朕カ深ク謝スル所ナリ獨逸國紙幣ノ法律ハ從前ヨリ種々難事アリシカレ今般議官ノ盡力ニヨリ國中ノ紙幣ヲ一樣ニナシ并ニ紙幣ニ關スル妨害ヲ除キ去リ



聯邦中其法律ヲ平等ニスルヲ得タリ  
 其他議官等聯邦議員ト一致シ邦家ノ法憲ヲ皇  
 張シ且ツ朕カ聯邦ノ政府ト盡力セシ所ノ件々  
 ナ議官等皆此ニ決定セリ以テ此法憲ヲ將來ニ  
 皇張シ朕カ邦家ノ保護トナシ歐州中獨逸國正  
 大ノ勢力ニヨリ大平ヲ保テ開化ノ進歩ヲナス  
 ニ足レリ  
 諸議官朕カ病後ニ方リ此ニ集會アルハ即テ朕  
 カ幸福ニテ神明ノ朕ヲ助クル所ナリ  
 此勅語了リシ後右勅語中太平ヲ保ツノ一段更

ニ議官ノ意ニ適セリ「バイイルン」ノ宰臣「フェイス  
 テル」氏皇帝陛下ノ高德ヲ稱賛シテ後此禮式總  
 テ終リス

東條一郎譯



獨逸ニ聯邦議院及ヒ民撰議院アリ聯邦議院ハ  
 即チ聯邦中ノ王公侯伯ヨリ議官ヲ命シ伯林ニ  
 集會セシメ以テ聯邦中ノ國務ヲ議シ常ニ此院  
 ナ設ケ置キテ廢スルヲナク民撰議院ハ聯邦ノ  
 人民ヨリ各代議士ヲ直撰シテ伯林ニ遣シ國務  
 ナ議セシメ年々開閉ノ時限アリテ常ニ此院ヲ  
 設ケ置クニ非ス此外各邦ニ議院ヲ設ケ置クモ  
 ノナラント、ターグト云フ州邦議院ノ義ナリ  
 獨逸皇帝兼普王ヨリ「ヒルスト、ビスマルク」氏ヲ

聯邦議院ノ議長トナシ又軍務卿兼陸軍ノ大將  
 ローン氏司法卿「レナンハルド」氏大藏卿カンバ  
 ウセン氏政院ノ督長「テレンブリツク」氏等ヲ以テ  
 聯邦議官ニ命ス

「バイイルン」王ヨリハ宮内卿兼外務卿「プレツス  
 シチル」氏等外ニ七名 薩遜王ヨリハ政務卿某  
 外ニ五名 ウユルテンベルク「王」ヨリハ六名  
 「バーデン」侯ヨリハ五名 「ヘセン」及ビ「ライン」侯  
 ヨリハ三名 「メクレンブルク、シウユリー」侯  
 ヨリハ兩名其他各邦ヨリ各一兩名ツ、チ聯邦



議官ニ命ス  
右聯邦議院ノ議官ニ各其主任ヲ區分ス其條目  
左ノ如シ

鎮臺兵及ビ寨堡ノ主任

海軍主任 租稅主任 貿易主任

鐵道主任 法律主任 會計主任

外交主任 イルサツツ、ロートリ主任

附錄乙號

軍務ノタメ殘廢疾トナル者ハ更ニ役所等ノ小  
使トスルカ或ハ之ヲ欲セサルカ又ハ其人員多

キニ過クルカノキハ一ヶ月ニ「ターレル」ノ扶助  
金ヲ與フ但士官ニシテ軍務ノ役人トナリ或ハ  
文官トナルヲ得ル者ハ此例ニ非ス

附錄丙號

法律十四章ニ於テ外國出版ノ書籍一ケ年間ニ  
二度訴訟ノ起リタルモノハ二ケ年ノ間其書籍  
ヲ發賣スルヲ禁止ス其他出版書籍ニ付テノ  
通例刑法ハ六ヶ月間ノ繫縛或ハ入牢又ハ千「マ  
ルク」<sup>一</sup>三「マ」<sup>四</sup>「ク」<sup>レ</sup>「ル」<sup>ン</sup>迄ノ罰金ナリ又十五章ニ於  
テハ戰爭ノ時或ハ兵端ヲ開クキ兵隊ノ配賦并



ニ防禦ノ事ニ關スルヲ公布スルヲ禁制セ  
 リ  
 第九章ニ於テハ時々出版ノ書類ハ其發賣ノ前  
 ニ出版主ヨリ其一部ヲ「ボリス」役所ニ出シ許容  
 ナ受ケヘシ但學業技術工業等ニ關スル出版物  
 ハ此例ニ非ス

千八百七十四年獨逸民選議院ノ議事ニ

關スル論說

先ツ開會ノ論題ハ一々前文ノ勅語中ニ詳ナリ  
 只政教兩際ニ關シ一語ヲ發セサルハ人ノ著眼  
 スヘキ所ナリ  
 四月廿六日皇帝「ウエルヘル」親ラ伯林ノ「ワイ  
 センサロン」ニ於テ下セシ所ノ勅語ニヨリ兵律  
 及ヒ海陸ノ廢兵ヲ保護スル律并ニ獨逸國紙幣  
 ノ規則ヲ定メテ全獨逸國ノ紙幣ヲ同一ニセリ



元來此勅諭ノ大意ハ全獨逸ヲ普魯斯ノ向意ニ  
 從ハシメ所謂文國「ク、スル、ト、ウ、ト」ヲ武國「ミ、スリ、タ、リ」  
ト、トナサントスルノ旨意ニテ專ラ只兵事ノミ  
 ナ陳シタリ

又三月廿日ノ帝誕節ニ於テ皇帝「ゲ子、ラール」ニ  
 語リシ中ニモ常備兵ノ事及ヒ一般徵兵ノ法及  
 ヒ廢兵保護ノ事等ヲ舉ケ陳シタリ之ヲ概言ス  
 ルニ二月五日發會ノ勅語ニヨリ揭ケ舉ケタル  
 所ノモノハ畧之ヲ議定スト稱スヘシ兵律ノ事  
 モ政府ノ素意ニ非スト雖モ政府ト代議士熟議

ノ上所謂七年兵律ヲ定メタリ其他廢兵ヲ護ス  
 ルノ法ヲ改正シ救助金ノ法ヲ定メ又七拾年ノ  
 戰爭後北獨逸ニ於テ兵備ヲ給シタル入費ヲ遂  
 々償復スル事ヲ定メタリ附錄乙號今般定メ  
 タル出版書籍類ニ關スル法律昨年中「ビスマル  
 ク黨」ノ論タル議案トハ少シク異ニシテ巡查ヲ  
 以テ嚴ニ拒ムノ法ヲ設ケタリ附錄丙號  
 新ニ海岸ニ關スル法律ヲ定ムルハ獨逸海岸ニ  
 テノ沈溺人并ニ荷物等ヲ保護スル爲メナリ只  
 工業ノ規則會計法律歳入出及ビ會計檢査寮ノ



管理法ハ遂ニ其議ヲ了ハラスシテ止ム然シテ  
 又聯邦政府ニテ論題ノ外ニ舉論シタル箇條中  
 舊貫ニ依ルモノアリ又改革論定スル所ノモノ  
 アリ其内緊要ナルモノヲ舉ルニ中慣習ノ律法  
 ナ廢シ政府ノ許容ヲ受ケザル教會ノ僧官ハ放  
 逐スルノ法ヲ設ケタリ是即チ「ライヘス、アフ」  
 國ノ法及ヒ國內紙幣遺拂ノ法律等是ナリ及ヒ  
 殊ノ紙幣アリタリハ各其外全國一般種痘ヲ要ス  
 ルノ法憲ヲ設ケタリ  
 外ニ又種々ノ事ヲ特許シ并ニ埃及在留獨逸領

事ノ法權ヲ削リ又「バイルント」ノ郵便條約瑞西  
 ト罪犯互還ノ條約ヲ議定シ議院ノ議官ニ往還  
 ノ鐵道鑑札ヲ給シ獨逸ノ議官ハ給金ヲ與ヘテ  
 與フ及ヒ金星研究ノ爲メ遠地ニ差遣スルヲ并  
 ニ威也納ニ公使館ヲ築クヲ伯林ニ鐵道停車場  
 ヲ建ツルヲ等ヲ議決シタリ  
 民選議院ノ代議士變例婚式婚禮ヲ教會ニ屈ケ  
 規ヲ要スルノ法ヲ定メ國トモ其法ヲ立ルテ  
 非スルナリ自及ヒ全國ノ人民都テ教會ニ支  
 配ヲ受ケサルノ法律ヲ定メタリ然レモ此法律



ハ聯邦會議同意セサル所ナリ  
 代議士ニ給金ヲ與フルノ論ハ政府ニテ之ヲ拒  
 ミ行ハス旨ヲ止ム澳國ト通用シタル「ターレル」  
 金ニ關スル法律ヲ改革セリ是ハ聯邦議院ニテ  
 人民ノ希望ニ從ヒ彼ノ「ターレル」金ヲ獨逸國ニ  
 テモ通用スルヲ許シタル所ノモノナリ  
 議院會議ノ節名氏ヲ呼上ケテ同議異論ヲ問フ  
 止メ更ニ「ハンメル、スプリンク」羊ルノ如ク相  
 會議ノ相席ニテ同議異論ノ者一旦「其場」ニ入  
 右ニ相對シタル戸異論者ヒ其席「ニ」入場ヲ去リ  
 然異別ノ者ルヲ判ト稱スル法ヲ立「レ」ド子ル、リ  
 然異別ノ者ルヲ判ト稱スル法ヲ立「レ」ド子ル、リ

ト各議士論ニ差出スベシト欲スヲ用ユル「テ」廢シ  
 たり  
 前ノ會議ニ於テ議決セル議院ヲ建築スル「テ」モ  
 未タ其場所ヲ定メスト云フ  
 今般決定セシ法律ハ人間自由ノ意ニ適セサル  
 モノナリト雖「モ」二月五日ヨリ四月廿六日迄ノ  
 會議ハ以前ノ會議ニ同シク實ニ緊要ナルモノ  
 ト稱スヘシ然レ「モ」獨逸ノ代議士ハ多ク政府ニ  
 雷同セリ此條「モ」照準スル「ベシ」政體且ツ其議論自由ノ  
 利ヲ妨クルモノ多クシテ將來ノ是非果シテ如



何ヲ知ラサルナリ

東條一郎譯

千八百七拾四年十月廿九日獨逸國民選議院發會式ノ勅語

此日午後第一時伯林ノ王宮ニ議員二百名出頭アリ皇帝「ザキルヘルム」モ皇太子「カール」等ト此席ニ臨ミ議長「フロツケンベツク」氏三度高貴「ホ」ト唱ヒテ皇帝ヲ并禮シ「ビスマルク」侯勅書ヲ陛下ニ捧ケ帝親ヲ之ヲ把リ携フル所ノ冠帽ヲ戴テ其書ヲ讀ミテ衆ニ示ス尋テ「ビスマルク」侯議院發會ヲ演



述シ「バハリア」侯ノ公使三度高貴ト唱ヒテ  
發會式結尾ノ禮ヲナセリ交際官員ノ席ニ  
ハ佛亞兩國ノ公使等出頭セリ  
朕當年再ヒ諸議官ト邦家大法ノ進歩ヲ協議ス  
議事建律ノ課目ハ他ニ非ス即チ前ノ會議ヲ煩  
シ大ニ難シトスル所ノ者ナリ國憲ニテ公告ス  
ル裁判律ヲ立ルニ付民政上ノ事ノミハ既ニ  
北部聯邦ニテ其商議アリ建國以來一千八百七十  
ナナル後著手ヲ勞スル所ノ者ナリ○律案四箇條  
選テ聯邦院ニテ商議アル裁判、民政、刑法、コンク

ルス、フルフハーレン<sup>破産ノ商人等ノ律案ヲ</sup>  
均一ニスルハ既ニ數十年來律學者ノ樞要トナ  
シテ論スル所ノ者ニシテ以テ我邦家ノ美事ヲ  
保スルニ足レリ閣置スベカラサルノ急務ナリ  
諸官篤ク之ヲ議定セサルハ是結果ノ功ニシ  
テ獨逸全國ノ法學及ヒ貿易ニ關スルノ一大事  
ナリ○諸官篤ク議定シテ貿易ヲ盛大ニシ學事  
ノ弊ヲ補フノ策ヲ建ラルヘシ今裁判法ヲ均一  
ニスルヲ決定セラルノ際ニ當リ先ツ民法  
ヲ同一ニスルヲ議定セラルヘシ元來此裁判



法ヲ同一ニ成シ了スルハ永ク年ヲ經ルニ非レ  
ハ難シトスル所ナレモ今之ヲ成了スルノ期近  
キニ在ルヲ知り朕カ喜ヒ之ニ過キス前ノ會議  
ニテ既ニ決セントスル兵律中軍法均一ノ法律  
ハ律案三分條ニ因テ逐次補ヒ足サルヘク内二  
箇條民兵「ラノトス」律及ヒ常兵役ヲ免スル者ノ  
取調ニ關スル律ハ既ニ軍律中ニ掲載セリ第三  
條常備兵ニ要スル諸品備付ケノ律令ハ時宜ニ  
應スルノ方法ニヨリテ定メラルヘシ  
食料品ノ價沸騰スルハ養兵ノ入費ニ關涉シ兵

事上ノ技術進步スルニヨリ兵備ニ要スル入費  
多ク從前供スル所ノ軍費ニテハ之ニ充ルニ足  
ラス因テ其國用ヲ増額スルコト又戶籍稅ヲ增  
スコトハ前ノ會議ニ於テ既ニ告下セシ所ナリ今  
千八百七拾五年國用ノ定額ヲ定ムル爲メ戶籍  
稅ノ増額ヲ充分ニセラルヘシ是兵備金及ヒ其  
他ノ諸入費ヲ増額スルコトニ付緊要トスル所ナ  
リ  
前ノ會議ニテ定メタル法律ニ因リ紙幣通用ノ  
規則ヲ定メラル、後貨幣法律ノ結尾トシテ爲



換券通用ノ規則ヲ定メラレンヲ望ム○爰ニ掲載スル議案ニヨリ聯邦ノ諸政府金屬貨幣ノ通用永續シテ公然ノ利ヲ收ムルノ權ヲ保タルヘキハ實ニ要用ナル事ニテ預メ又後來金貨ノ相場關スル律令ヲ議セラルベシ  
前ノ會議ニテ未タ決定セサル歲入清算ノ規則ヲ立ン爲メ歲入出ノ管理及ヒ清算寮ノ規則ニ關スル律案ヲ再ヒ議官ノ論目トナス○千八百六十七年及ヒ千八百七十一年ノ歲入清算ヲ議決シ了リ及ヒ千八百七十三年歲入出ノ概畧ヲ

議官ノ決議ニ供スヘシ○イイルサッス、ロートリ名地ノ歲入ヲ初テ商議セラルヘシ其金額ハ國用出入ノ模様ト此迄年々入用ノ高トテ照準シ試驗熟考セラルヘシ  
諸議官等ヨリ朕カ上來尼川上ノ國民ニ對シ此古國獨逸人民タル深意ヲ體認スル様說諭アルナルヘシ○人別届及ヒ婚式ノ律案ニ付前ノ會議ニテ決議スル件々ニヨリ聯邦院ニテ政府ノ手ノミニ届願フ婚式規則ノ律令ヲ草シ及ヒ人別届ノ布令ヲ定ムヘキヲ許可セリ



國中置郵ノ方諸外國ト示談ノ上新ニ法ヲ立テ  
萬國ト郵便條約ヲ結フハ朕カ渴望スル所ナリ  
幸ニ「ベルン」ニ於テ諸國人ト會同シ結約調印ス  
ルヲ得以テ人民ノ貿易上互ニ其便利盛大ヲナ  
シ大ニ喜フ所ナリ○朕カ國タル諸外國政府ト  
ノ關係ニ於ケル親睦ニシテ相好ミシ友誼益深  
ク太平ノ永續スルハ諸官ニ保證スル所ナリ  
朕固ヨリ他ニ對シテ事ヲ起スヲ好マス故ニ政  
體ニ對シ少シク猜疑ヲ抱ク者アルモ尙之ヲ包  
容スヘシ只冀ニ黨派ヲ結ヒ實際ニ抗スル者ア

ルニ於テハ國ヲ以テ之ニ臨マサルヲ得ス故ニ  
知ル全國ノ人民及ヒ人民ノ諸侯常ニ朕ト一致  
シ共ニ國ノ正理名譽ヲ保タル、ヲテ

東條 一郎 譯



千八百七拾三年十一月五日佛蘭西國議  
事院ノ開式ニ付大統領「マレシアルドマ  
クマホン」氏ノ告文

嚮日本院閉場ノトキ子閉院中國家ノ靜謐ナル  
ヲ保シ各位ノ良心ヲ安ンシテ歸郷シ得ヘキノ  
意ヲ陳セリ果タシテ其言ニ違ハス今日貴官再  
會シテ我佛國ノ治平ナルヲ見ル今也内外靜寧  
ニシテ他國ノ兵全ク佛國ヲ去リ我佛兵代ツテ  
警衛シ州民蘇生ノ喜ヲ爲ス各國政府モ亦益吾



國ト親睦シ交誼ヲ永續セント欲スルノ確證ヲ得タリ是蓋我國民ノ平穩ヲ保全スルノ決意ナルヲ知リ國運ノ挽回スルヲ見レハナリ内國ノ政務ヲ委托スル所ノ吏人各意見ヲ殊ニスト雖<sub>レ</sub>然<sub>レ</sub>皆國家ノ平穩ヲ庶幾シ現存ノ政度憲法遵ヲ奉シ專ラ勵精シテ治ヲ圖レリ抑政務ハ妄リニ變更廢止スルノ暴意ヲ好ミセサルハ貴官ノ常ニ希望スル所ナリ故ニ予モマタ大統領ノ職ヲ忝フスルノ間必ス此意ヲ体シテ程限ヲ愆ラサフンヲ期ス

今貴官再會ノ期ニ迫リ人心未タ鎮靜ヲ得ス議政ノ徒互ニ相討論スルヲ勢猛火ノ如シ本日ノ該院ヲ開ク貴官等ノ最モ先急ニスヘキ所ノモノハ前ノ大統領ヨリ出ス所ノ憲法ヲ查定スルニアリ蓋シ此憲法ヲ議決スルニ當リテハ議必ス前年定兵害ノ後イマタ確定セサル政府永世體裁ヲ定ムルノ論件ニ及フヘシ倘シ然ラハ各黨各己ノ見説ヲ主張シテ討論或ハ過激ニ涉ルヘシ然<sub>レ</sub>モ予ハ毫モ黨派ノ論説ニ比明スルノ意ナク且ツ威權赫々タル貴官ノ決議ヲ拒ムノ



權ナシテカ統括スル政府ノ所爲ハ只憲法ノ程  
限ヲ愆ラス事物ノ的否ヲ辨説シ百般貴官ノ評  
決スル所ニ從ツテ之ヲ施行スルニ在ルノミ故  
ニ貴官ノ威權ハ益盛大ニシテ是ヲ妨ケ得ヘキ  
モノナリシ之ヲ要スルニ今日人心ノ動搖物議  
ノ紛紜タルヲ見ルニ政府ノ体裁ヲ確定スル事  
容易ニ非ス必ス苦情ヲ生スヘキヲ察セサルヘ  
カラス又今日ノ政体ヲ保續シ黨派ノ別ナク專  
物各其所ヲ得國家ノ治平ヲ好ムノ輩ヲシテ相  
率テ政府ヲ輔佐セシムルハ政務ノ當理タルヲ

思ハサルヘカラス貴官若シ此兩條ヲ以テ理ア  
リトセハ貴官ノ自カラ推撰スル所ノ子ヲシテ  
詳ニ其思慮ヲ陳述スルヲ得セシムヘシ  
國家ノ靜謐ヲ永續シ之ヲ確乎不拔タラシムル  
ハ當今ノ政府ヲシテ威權勢力ノ二者ヲ得セシ  
ムルニ在リ夫政務ヲ行フ其人ヲ不擇日ニ其職  
ヲ點陟シ月ニ其權ヲ變更スレハ則唯ニ黨派ノ  
異說ヲ鎮壓シ能ハサルノミナラス亦善政ヲ永  
久ニ行フヲ得ス苟モ權勢ノ日ニ變更スル今日  
ノ倫安ヲ得ルト雖モ明日ノ平穩ヲ期スル能ハ



ス明日ノ平穩ヲ期スル能ハサレハ則チ内以テ  
大業ヲ成スニ足ラス外以テ信ヲ各國ニ失ス信  
ヲ各國ニ失スルトキハ何ヲ以テ國民ノ威勢ヲ  
廻復保護スルヲ得ンヤ方今ノ政府威權勢力ノ  
二者ニ乏シク政黨ヲ厭伏スル能ハス官吏ヲ服  
從センムルノ法亦未タ充備セス著書新聞ノ梓  
行其程限ナク隨意暴説ヲ唱ルモノ少カラス竟  
ニ人心ヲ蠱惑セシメン又「ミユニシバリテ」市街  
ヲ別名別シノ吏人ハ己レ法令行フノ機關タルヲ  
忘レ數々妄行アリ予恐ル國中遂ニ本政府ニ代

テ其職ニ克フル者ナキニ至ラン  
冀クハ各位今日政務ノ多艱ナルヲ察シ將來  
國運ノ挽回ヲ計リ嚴ニ之ヲ保護スルヲ得ベキ  
永續不拔ノ行政官ヲ設ケンヲ  
於ベルサイ府

マレシアルマクマホン

平山成一郎譯



千八百七十四年十二月三日 木曜日 於巴里府大統領議院ニ下スノ告文

本日右院副長「シエチラール、ド、シツセイ」氏議院ニ於テ左ノ文ヲ讀ミタリ即チ大統領「マレミアルドマクマホレ」議院ニ告クルモノナリ

議員各位

今日諸君復々職ニ就クノ期ニ會シ内國ノ景況ヲ明陳シテ諸君ニ告ルハ政府ノ當務ニシテ予モ亦自己ノ所思ヲ公正演說セサルヲ得ス

予徵オト雖ニ諸君此ニ在ラサルノ間常ニ力ヲ盡クシテ予ニ委セラレタルニ務ヲ達スルヲ期セリニ務トハ昇平ノ基ヲ固フシ治安ノ効ヲ保ツニ在リ

方今外事ノ艱難既ニ熄テ我國內專務ノ改革ヲ妨ルモノナシ我政府ハ毎ニ言ト行トニヨリ百ノ盟約ヲ確守遵行スルノ決意ヲ證セリ外國ニ交ルスノ如クスルハ固ヨリ諸君ノ可トセル所ニシテ我輩常ニ此道ヲ守リテ變セサルニヨリ外交上益信用ヲ來タシ今日ニ於テハ締盟各國



一トシテ我諸君ト好ヲ密ニシ父ヲ厚フスルノ  
直意ヲ疑フモノナシ  
國內ニ於テハ經濟上ノ形況大ニ回復ヲ徵シ去  
年ノ凶歉ニ次クニ今年異常ノ豐穰ヲ以テセリ  
此天祐ト農業ノ進歩無斷ナルトニヨリ農産物  
未曾有ノ多數ニ及ヘリ今歳ノ豐穰ハ宜ク天ニ  
謝スヘキモノニシテ其工商百般ニ感及シテ全  
國ノ幸福ニ資益スルヤ必セリ  
工作ノ業モ亦年初六月間ハ去年凶歉ノ餘弊ヲ  
承ケテ大ニ哀頽ノ狀アリシカ今年ノ豐穰ニヨ

リ舊盛ニ復シソノ効驗歴々見ルヘシ輒近四月  
間ノ如ク國產輸出ノ額多リシハ未ダ曾テ有ラ  
サル所ニシテ交易ノ事ハ近時最モ盛ト稱セル  
千八百七十三年ニ下ルヲナカルヘシト思ヘル  
公益ノ土木工事モ亦振起興行シテ恰モ國民工  
作ノ回復ヲ助シントス我輩ノ國民ニ望ム所  
ハ其工作盛大ニ至リ租税ノ取額一層ヲ増加ス  
ルニ左リ我政府大イニ心ヲ經濟上ニ用ヒ特ニ  
歳出入ヲ平均スルノ方法ヲ講究セルハ正ニ諸  
君ノ意ト國民ノ望ミニ合スルナルヘシ我政府



ハ先ツ現在存立ノ諸税ノ全額ヲ徵スルヲ得テ  
不足ヲカラシムルノ方ヲ求メタリ經濟上事務  
ノ改革、其法令ヲ改正完全スルノ事、務メテ諸ノ  
詐奸ヲ防クノ處置ノ如キハ漸次之ヲ諸君ノ議  
ニ附セントス我國用ノ景況ハ特別ノ報告書ニ  
細述シ諸君ヲシテ該件熟知ノ後此ノ處置方法  
ハ千八百七拾四年八月五日決定セル法令ニ於  
テ未タ充分ナラサリシ缺ヲ補スルニ足ルヤ否  
ヲ議セシメントス  
予内國ノ數部ヲ巡行セル際到處人民皆亂離ヲ

厭ヒ靜息ヲ好ムノ情ヲ表シ且ツ諸君ノ久ク必  
要トスル建國ノ大法ヲ設ケ以テ十一月二十日  
所設ノ政府ヲシテ其任ヲ盡スニ足ルヘキ權力  
アラシメントシテ欲スルノ意ヲ證セリ是予ノ親  
ク目撃セル所ナリ  
我國民ハ謬說ノ爲メニ動搖セラレテ己ムナキ  
ニヨリ皆諸君ト共ニ斯民ヲ護スヘキ政府ノ基  
本ヲ固フシ慎密遠慮ノ處置ヲ施シ嚮者諸君佛  
國ヲシテ治安ナラシメントシテ約セル年間常ニ官  
司ノ諸權善ク行レテ妨碍ナカラントシテ渴望ス



ルモノナリ  
 諸君日ナラスシテ此重件ヲ議スルニ當リ皆共  
 和戮力アラシムハ予ノ深ク期望スル所ナリ予  
 敢テ自己ノ責ヲ免ントスルノ意ナリ且ツ我政  
 府力ヲ盡クシテ諸君ヲ助クヘキハ言ヲ俟タス  
 ○然リト雖モ予今日ニ於テ先ツ國家ト議院ト  
 ニ對シテ自ラ職トスル所ノモノヲ諸君ニ演ヘ  
 サルヲ得ス  
 抑予ノ現職ヲ受任セルハ曾テ一黨ノ說ヲ助ル  
 カ爲メナラス全ク世道ヲ護シ國力ヲ復スルニ

在ルノミ

予此職ヲ行フカ爲ノ狹隘ノ意ヲ去リ博ク正心  
 國事ヲ以テ私事ヲ廢スルノ徒ト共ニ事ヲ就ン  
 トス是予ノ佛國民ニ代リテ期望スル所ニシテ  
 唯佛國ノ挽回ト光榮トヲ望ムノ外復他事ヲ願  
 ミス然レモ予ノ職ヲ行フカ爲メニハ如何ナル  
 艱難ノ日ニ至ルモ曾テ屈撓スルコトナカルヘシ  
 千八百七十三年十一月二十日諸君實ニ昇平治  
 安ヲ保スルカ爲メ予ニ任スルニ七年行政ノ權  
 ナリテセリ予モ亦諸君ノ委セラレタル守所ニ



止リ勇ヲ奮ヒテ屈セス法ニ遵ヒテ背カス以テ  
昇平治安ヲ保シ力竭ルノ日ニ至ラスンハ誓テ  
守ヲ弁ルヲナカルヘシ諸君其之ヲ諒セヨ

平山成一郎譯

羅馬ニ於テ伊太利國議事院ノ開業式

千八百七十三年十一月十五日土曜日伊太利國  
王陛下階ニ昇リ勅語ヲ下シテ議事院ノ開業式  
ヲ行フ  
十一時十五分前國王陛下太子オンベルト殿下  
并太子アマデス殿下ヲ伴フテキウヰルナルノ  
王宮ヲ發ス數大隊ノ兵士戎裝シテ護送ス  
近衛兵ノ一隊并護國兵ノ一分隊鳳輦ノ前驅ヲ  
爲セリ王旗ヲ捧ケタル車并太子及ヒ文武ノ上



官大禮服ヲ著シ駕スル所ノ車都テ四輛鳳輦ノ  
後ニ扈從ス  
國王「モントシトリオ」ニ到ルトキニ上下院ノ議  
官并上院ノ議長「ボルリガ」氏下院ノ裁判官「シ  
ツク、ピサチリ」氏及ヒ諸省ノ長官國王ニ謁見  
ス  
十一時五分諸王族同シク調室ニ到ル少頃クシ  
テ國王到ル衆議官祝詞ヲ上ツル國王御座ニ著  
ク内務長官「シツグ、カンテリ」氏國王ニ請ヒ上  
下院ノ諸員ヲシテ各座ニ著カシム國王乃チ上

下院ノ諸員ニ告テ曰ク

朕前年羅馬ニ於テ會議ヲ開キ汝ニ托シテ  
國內ヲ整理スルユトヲ議セシム抑此舉ヤ  
一ノ難事ニシテ以テ忽諸スヘカラス然レ  
トモ汝等力ヲ國家ニ盡シ既ニ其効ヲ觀ル  
是他日業成ルノ證ニシテ苟モ此勉力ニ由  
ラハ伊太利國民ノ衆望ニ滿タシムルニ至  
ル亦期スヘキナリ  
産業勉勵ノ道國內ノ各部ニ起ルト此蓋シ  
國民共和各自由ヲ得テ以テ此國ニ有スル



所ノ生産ノ道ヲシテ大ニ世ニ開カント計  
ルノ外他ナキノ徵候ナリ夫國家ノ平治ハ  
産業進歩ノ大本タリ故ニ國家ノ平治ヲ圖  
リ産業ノ進歩ヲ助クルハ政府今日ノ職掌  
ト謂フヘシ  
伊太利ノ都ヲ羅馬ニ建テシヨリ以來未曾  
テ法王自主ノ權利ヲ奪ハス其教令ヲテ施  
ユスト天主教派ニ關スルノ事トハ一ニ法  
王ノ權ニ屬セリ然レトモ此權利ヲ恣マ  
ニシテ國政ニ背カシムルヲ許サス

外國ト我國ノ交際ハ益厚シト謂フヘシ朕  
頃日澳斯太利帝兼洪葛利ノ國王ヲ訪ヒ又  
獨逸ノ國帝ヲ問テ彼ノ交誼ヲ固フス彼國  
ノ君民並ニ切ニ我國ノ興復ヲ望メリ我國  
民能ク力ヲ興復ノ事ニ盡セハ則チ我國  
開化ヲシテ他國ト勢ヲ齊フスルニ至ルヘ  
シ近時我國澳國ト兵衅ヲ啓ケリ事成リテ  
以來兩國ノ際互ニ幸福ヲ祈リ親睦ヲ厚フ  
スルノ外亦他意ナシ況ンヤ朕澳國ト親ア  
リ故ニ其交ヲ結ヘルハ朕尤モ之ヲ喜フ然



レトモ前日兩國交戦ノ時ニ當テハ朕此好  
 ミテ顧ミルニ違マラス  
 我國ト獨逸トハ同シク其國郡ヲ併一シ相  
 共ニ數百年民力ヲ盡シテ維持シタル王政  
 ニ基キ良猷ヲ創設セリ此兩國民心ノ同一  
 ニ出ルカ如ク兩政府交際ノ厚キハ永ク平  
 和ヲ保スルソ驗證ナリ  
 萬國ト交誼ヲ保ツハ朕カ希フトコロナリ  
 然レトモ常ニ我國民ノ權利ト威力トヲ保  
 護スルハ朕カ職掌タリ我國民先ツ己ノ強

弱ヲ知ラサルヘカラス故ニ宜シク陸軍ヲ  
 充備シ國家ヲ保守スル法ヲ議定スヘシ我  
 陸軍ハ毎ニ外敵ヲ退ケ屢々國譽ヲ顯ハセ  
 リ朕ノ意ハ陸軍ヲ強ムルニ在リ又昔日ヲ  
 省ミテ向來必ス海軍ノ用アルヲ知ル海陸  
 ノ軍備汝其忽ニスルナカレ且ツ我全國ニ  
 産業ヲ授ケ幸福ヲ布ノ大專業ヲ起スノ事  
 モ亦復汝ヲ煩ハサン然レドモ兵備ヲ設ケ  
 産業ヲ開キ國貨ヲ富マシメ國威ヲ張ル務  
 メテ金穀出納ノ宜シキヲ得ルヲ要ス從來



我人民力ヲ奮マス以テ國用ヲ給セリ國家  
將來ノ富安ヲ謀ルハ實ニ是汝ノ職ナリ我  
國ノ此安全ヲ望ミ此富貴ヲ祈ルコト久シ  
今日方ニ其効ヲ致スノ秋ヲ得タリ  
國內方今ノ通貨ハ止ムヲ得サルニ出ツ朕  
亦之ヲ慨ス然レモ頃來國政改革ノ勢ヲ視  
ルニ逐ニ此弊害ヲ除クヲ得ヘシ今日ヨリ  
後更ニ嚴則ヲ設ケ務メテ此弊ヲ除クハ我  
政府ノ職分ナリ宜シク其實効ヲ樹ルノ一  
法ヲ施スヘシ且ツ本年議事ノ間ヲ以テ裁

判教化民政ノ三事ニ就テ其須用ノ法ヲ議  
スヘシ  
今我國內併一ニ歸シ相共ニ國治ヲ圖ル將  
來永ク平和ヲ保スルヲ朕疑ヲ容レヌ此時  
ニ棄シ開化進歩ヲ致スベク人民幸福ヲ獲  
ヘク國政モ亦其良善ヲ得ヘシ前日危急ノ  
際焦心盡力シテ以テ此國ヲ維持セリ今此  
國ヲ保護シ之ヲ子孫ニ傳ルハ國內相和シ  
テ開化ヲ進メ良政ヲ施シテ天佑ヲ仰クニ  
外ナラス



今日朕我國民ニ依頼スルコト昔日ニ異ナラ  
ス朕思フニ國民モ亦朕ニ依頼セン  
國王陛下ノ詞終ツテ國內事務總裁會議ノ  
開局ヲ公告ス  
上下院議員ノ外ニ各國公使其席ニ列座ス  
十二時十五分前開會ノ儀式ヲ終ユ

國王陛下ノ勅語ニ對シ議院ノ答詞  
我國民陛下ノ聲ヲ聞ク毎ニ感動セサルモ  
ノナシ前日國政ヲ興スニ當テ陛下臣等ト  
其苦心ヲ共ニシ臣等ヲシテ其効ヲ樹テシ  
メ遂ニ今日臣等ニ命シテ國家ノ繁榮ヲ議  
ルニ至レリ  
近時陛下ニ從ヒ獨逸ト澳斯太利ノ兩國ニ  
至リ彼我ノ和親ヲ祝セル我人民ハ皆是昔  
日戰爭ノ際陛下ノタメ力ヲ國家ニ盡セシ



義士ナリ陛下ノ彼兩國ニ至リシハ我國家  
ノ安全ヲ圖ルノ一證ナリ而シテ彼國ト親  
睦ヲ厚フスルハ翹ニ陛下ノ心ヲ安ンスル  
而已ナラス亦國ヲ治ムルノ良算ト謂フヘ  
シ歐洲ノ民之ヲ聞テ感心セハ長ク干戈ノ  
途ヲ塞キ以テ和親ヲ保全スヘシ  
外國ト我國ノ交際親睦ナリト聞クハ國家  
ノ幸ヒナリ先年危急ノ際我國ヲ輔佐セシ  
人民ト交誼ヲ厚フスルハ他ナシ昔日ノ友  
情ヲ忘却セサル故ナリ貪妬ノ念ハ並ニ袂

禍ヲ來タス獨リ敗國然ルノミニアラス敵  
ニ捷ツノ國モ亦害アリ今ヤ此慾念ヲ去テ  
昔日相鬪ノ人ト互ニ款親ヲ通シ相競テ開  
化ノ域ニ進ムノ曹輩タリ是ニ於テカ臣等  
更ニ方向ヲ轉シマサニ國政ヲ釐革シ務メ  
テ國家ノ安全ヲ圖ラン  
ス其都ヲ羅馬ニ  
建テタルハ國民一和シテ國ヲ固フスルノ  
徵ナリ  
我國方ニ天下平和ノ國トナレリ今ヨリシ  
テ外交ヲ萬國ニ厚フシ内産業ヲ勵マシ知



識ヲ擴メ開化ノ進歩ヲ祈ルノ外他ナシ  
陛下宗教ヲ崇ミ之ニ干涉セサルノ意ヲ表  
セシハ將來一日モ之ヲ忘ルベカラス是宗  
教ヲ愛敬シ恩惠ヲ施スノ道ニシテ内亂ヲ  
醸スノ患ナシ假令背クニトアルモ我國一  
般ノ自由ヲ保護スル國法ヲ以テ之ヲ防グ  
ベシ國ヲ富マシ國ヲ強ムルハ金穀出納ノ  
實算ヲ定ムルコトヲ緊要トスルノ旨アリ  
臣等今ヨリ謹テ陛下ノ命ヲ奉シ會計ノ目  
的ヲ建テ且ツ現今通貨ノ弊害ヲ除クコトヲ

勉ムヘシ  
國ノ毀譽ニ關スルノ重事ハ我人民固ヨリ  
力ヲ畜マスシテ以テ國用ヲ足セリ然レト  
モ國民ヲシテ今日ノ急務ト將來ノ幸福ト  
ヲ了會セシメ我政府モ亦徒ラニ民力ヲ費  
サス務メテ國家ノ經濟ヲ害セサルノ策ヲ  
建テ宜キニ應スルノ民力ヲ借ラサルヲ得  
ス  
臣等陛下ノ命ヲ奉シ政府ヲ助ケテ民政ヲ  
治メ法律ヲ正シ教化ヲ國內ニ布キ現今金



穀ノ出納ヲ下カニシ官吏ノ俸祿ヲ節スル  
 コトヲ勉メ我伊太利亞國民ノタメニ力ヲ  
 盡シテ産業ヲ授ケ幸福ヲ布クノ大事業ヲ  
 起スベシ  
 本年開局ノ間當ニ議スルキ條款中國家ノ  
 防備ヲ爲スノ件ハ殊ニ重務タリ海軍ノ備  
 ハ我國固ヨリ缺クヘカラス陸軍ハ己ニ外  
 患ヲ防キ屢我國光ヲ揚ケ又内亂ヲ靖ツメ  
 毎ニ我政府ヲ授ケリ故ニ海陸ノ二軍ヲ充  
 備スルノ事ハ臣等特ニ意ヲ此ニ注クベシ

陛下民ニ依頼スルノ旨アリ陛下ノ我國民  
 ナ愛スルノ真意ヲ表セリ國民亦之ニ答フ  
 ルニ伊太利統一ノ太祖ニシテ我權利ト威  
 力トヲ守護スルノ人ナル國王陛下ニ依頼  
 スト謂フヲ以テス

富田淳久譯



千八百七拾四年十一月廿三日以太利國  
議院ノ開式

此日ヤ一天雲ナク紅日七兵府羅馬ヲ照ラシ  
テ恰モ佳儀ヲ助ケタリ滿府曉ヲ拂テ大禮ノ準  
備ヲ爲シ屋頭皆三色ノ國旗ヲ掲ケ護國兵ハ鼓  
聲ヲ聞イテ集會シ府ノ屯衛兵ト相合シテ王車  
儀仗ノ過クヘキ道ノ兩側ニ列立セリ街頭ニハ  
看容山堆シ府人及ヒ外國人ノ高貴ナル輩ハ盛  
服シテ高樓ノ欄干ニ倚リ此盛典ヲ觀ント競ヘ  
リ第十時ニ至レハ議院ノ門始メテ開キ此式ニ

招請セラレシ輩及ヒ看客等争フテ此ニ雲集セ  
リ其數三千ニ及ヘリト云フ既ニシテ外國使臣  
ノ坐モ漸ク滿ク議員モ亦皆來會シ太子ノ妃アラ  
ラシセツス、マルゲリットハ上院議官シアロヤ  
氏ヲ具シテ該院ニ來著セリ衆之ヲ見テ皆萬歲  
ト唱ヘ其聲地ヲ撼セリ  
國王ハ十時後ニ至リ其二子アランス、ド、ビエモ  
ン及ヒシユツク、ダナストヲ具シ車ニ駕シ盛裝  
ノ衛兵車ノ前後ヲ擁シ肅々トシテキリナルル殿  
ニ行幸セリ其過ル處萬歲ノ聲止ムナク人民



ハ、國王ヲ祝シテ在スルカ如クナリキ  
 十時五十五分ニ至レハ議院頓ニ靜定シ衆皆王  
 車ノ近キヲ知レリ既ニシテ王ハ上下院ノ代員  
 之ヲ迎ヘタル者ト共ニ殿中ニ入り來レハ衆齊  
 ク萬歳ヲ唱ヘ王ハ殿殿ニ步ヲ停メテ衆ニ謝シ  
 又進ンテ玉坐ニ上レリ此時萬歳ノ聲再ヒ起リ  
 王復之ヲ謝セリ玉座ノ側ニハ皇子二人、諸卿、供  
 奉官員及ヒ武官侍從各其位ニ應ヂテ羅列セリ  
 是時新選ノ議員ヲシテ誓詞ヲ發セシメタリ其  
 式了ルマテ更ニ異事ナク「ガリバルデー」ハ不參

ニシテ其名ヲ呼ビタル時之ニ應セサリシカ院  
 中曾テ動搖ノ色ナカリシ  
 於是國王其告文ヲ讀メリ其間稱贊ノ聲ニヨリ  
 テ中止セラル、事數回ニ及ヒ就中内國ノ靜治  
 ニ干ル處最モ稱贊セラレタリ唯左方ノ議員  
 ハ此時沈黙シテ言ヲ發セサリケレモ告文ノ頭  
 尾ニ至リテハ全院皆之ヲ稱セリ  
 以國王「ウイクトル、エンアニユエル」第二世ノ告  
 文左ノ如シ



上下兩院ノ議員諸君ニ

朕今日國民ノ代員タル諸君ニ對スルニ方リ先  
ツ宵中ニ起ルモノハ曩者朕カ即位二十五年ノ  
祝期ニ際シ國民懇切ニ之ヲ賀セシテ謝スルノ  
意ナリ此祝賀ハ國民全ク自己ノ意ヨリ之ヲ行  
ヒシト全境一人ニ出ルカ如クナリシヲ以テ朕  
特ニ之ヲ感ス朕以爲ラク國民斯ノ如ク朕ヲ愛  
スルノ意ヲ表セルハ新議院ノ必ス國內改革ノ  
業ヲ勉行スヘキノ證徴トスヘシ  
我國民法律ハ既ニ之ヲ一定セリ刑法律モ亦然

ルヘキニヨリ既ニ上院ニ附シテ之ヲ熟講セシ  
メタレハ近日之ヲ諸君ノ議ニ下スヘシ  
諸君ノ決議ニヨリテ我以國ノ學知名聲ト相稱  
フヘキ刑法律ノ成就セント朕ノ深ク期望スル  
所ナリ  
朕カ政府國民ノ望ニ應シテ許約セル商法律改  
正ノ業ハ先ツ會社ノ制ヨリ著手スヘク宜ク政  
府ノ幫助ヲ節シ會社管主者ノ責任ヲ重クスヘ  
シ朕カ政府ハ國內兩三州中ノ靜治ヲ圖ンカ爲  
メ二三ノ處置方案ヲ諸君ノ議ニ附セントス是



此ノ數州中稍騷擾ヲ醸スモノアルニヨル諸君  
此方案ヲ議スルニ方リ世上最モ文明ナル國民  
及最自由ヲ欲スル議院ノ例ニ從フベシ此自由  
ナルモノ若シ人民ト其所有物ヲ庇護スルニ足  
ラサル時ハ人民復之ヲ信スル者ナカルベシ  
兵隊ノ新制善其功ヲ奏シ兵制進步セルハ朕ノ  
自ラ誇ル所ナリ軍隊ハ最モ朕カ親愛スル所ニ  
シテ朕一生ノ履歷軍隊ニ干スル事多シ  
此大業ヲ成就シ國ノ防禦ヲ固フスルハ必要ナ  
リ海軍ハ後來我輩ノ信任依頼スベキモノニシ

テ之ニ干スル事件モ亦諸君ノ議ニ附スヘキモ  
ノアラントス  
朕政府ハ租税ノ大者若干ニ關スル法案ヲ議ニ  
下スヘシ是其賦課方ヲシテ一層公平簡短ナラ  
シメ併セテ取納ノ額ヲ増サシメンテ期スルナ  
リ  
是我國經濟治民ノ法制ヲ漸々改正スルノ起手  
トスヘシ此等法制ハ艱難ノ際設クル者ニシテ  
適當ノ改正ヲ加ヘサルヲ得ス  
此業ノ成ルマテハ宜ク無用ノ費ヲ省クヘシ故



ニ今度議院ノ決スヘキハ唯其既ニ許約セル費用ト急要ノ費用トニ限ルヘク朕カ政府ハ此費用ヲ足ラシメンカ爲メ適宜ノ處置方案ヲ議院ニ下サントス諸君謹テ此道ニヨリテ事ヲ爲サハ日ナラヌシテ國家歳出入ヲ平均シ以テ國民ノ渴望スル所ヲ達スルヲ得ヘシ  
斯ノ成業ハ我國民諸種ノ艱苦ヲ忍ンテ屈セザリシノ報酬トナルヘシ  
然ラハ以國人ハ其行事公明聡ル所ナキノミナラス又曾テ公衆ノ信ヲ失ハサルノ美名ヲ享ク

ヘシ抑公衆ノ信ヲ失ハサルハ古來政事變革ノ際見ル少キ美事ナレハナリ

上下兩院諸君ニ

朕今諸君ニ告ルニ我國締盟各國トノ交際極厚ナルヲ以テスルヲ得ルハ朕ノ幸トスル所ナリ諸國各我以國ノ交ヲ重ンスルノ徵跡日ニ著ルルハ朕ノ悦フ所ニシテ是元我國ノ舉止慎重確乎タルニヨルト云フヘシ  
若シ此道ヲ守リテ背カズンハ以國ハ永ク天下ニ對シテ自由ト治平ト相合スル時ハ極難ノ事



情モ之ヲ處分シ得ヘキノ證照儀表トナリ且ツ  
其斯偉業ヲ中止シテ國名ヲ汚スヲナカルヘキ  
ヲ示スニ足ルヘシ  
天常ニ我輩ヲ護シテ至ラザルナシ今年ノ如キ  
ハ豐穰ヲ降シテ國土ニ祉セリ是窮民ノ爲メニ  
ハ大助トナルヘク窮民ハ朕ノ最モ係意垂憐ス  
ルモノナリ  
我輩宜ク共ニ天ヲ謝シ我輩ノ堅志ト行專トナ  
シテ永ク天ノ庇護扶持ヲ享クルニ堪ヘシメン  
ヲナ期スヘシ

平山成一郎譯



千八百七十四年八月八日英國儀院閉會  
ノ時女王陛下ノ勅語大意

議院ノ諸君ニ告ク

今日諸君ノ議事ヲ閉ツヘキ期ニ至レリ

朕先ツ諸君ニ謝スヘキハ今歲丁年ニ達セル「プ  
リンズレオポルト」ノ封祿ヲ速ニ議定アリタル  
事ナリ

我國同盟諸邦トノ交義極メテ深厚ナルハ各國  
互ニ條約ヲ守リ歐洲ノ昇平ヲシテ久長ナラシ

ムルノ基ナリ

魯帝公會ヲ「ブリュキセル」府ニ開キ戰事ヲ議シ  
以テ戰爭ノ害ヲ輕フセントスルノ舉アリ我國  
モ亦他國ノ如ク委員ヲ派シテ此會ニ臨マシメ  
タレバ豫メ此會ハ今日所行ノ萬國公法ニ背ク  
ヲナク就中海上戰時ノ公法ヲ變スル「ナキノ  
約束」アラフ「ナク」ヲ乞ヒタルニ諸國承允セリ朕此  
會ノ議事ハ巨細之ヲ查考スヘク且ツ之ヲ用ユ  
ルト否ト全ク自由タルヘキノ權ヲ存持セリ  
加拿太領地ト合衆國トノ通商條約ヲ再正セン



報告書  
「ナ米國ト商議中同國上院休業ニヨリ暫時停止スト雖其成就ノ期遠ニ非ス後來加拿太領ト米國トノ貿易一層盛大ニ趣ク「ナ希望ス西班牙國亂息マサルハ實ニ朕ノ痛心スル所ナリ速ニ其和平ニ至ン「ナ祈ル同國ノ如ク獨立不羈ノ友國ニ對シ全ク中立シテ其內事ニ干セザル「ナ第一至當ノ道ナリト思ハル  
黒奴賣買禁止ノ爲メ「ツアンナバール」ノ首領ト條約ヲ結ビシヨリ雙方違背スル事ナク既ニ海路ヲ經テ黒奴ヲ賣買スルノ「ハ全ク之ヲ防止

セリ  
我海軍外交ノ諸官益力ヲ盡シテ斯ル不仁ノ舉ヲ滅スルニ至ラン印度ノ凶歳モ幸ニ大害ナシ全ク天祐ト官司救荒ノ方宜ヲ得タルニ由ル印度副王及ヒ其管下ノ官司ノ所行實ニ稱スルニ堪エタリ  
「ユートドール」戦争後我官吏盡力シテ其地鎮撫ノ事ヲ務ム「アシアンナ」王亦善ク約ヲ守リテ違犯スル「ナシ  
下院ノ議官タル諸君ニ對シテ一語ヲ述ン諸君



善ク國用ヲ議定スルニ充分ニシテ不足ナカラ  
 シメタルハ深ク謝スル所ナリ  
 兩院ノ諸君大ニ稅額ヲ減シ得シハ實ニ歡喜ス  
 ル所ナリ砂糖稅全ク廢止ノ舉ハ唯之ヲ需用ス  
 ル者ノ爲メナラス大ニ其貿易ヲ盛ンニスルナ  
 ルヘシ馬稅ノ廢止モ亦商工ヲ盛ンニスルノ一  
 方ナリ斯ノ如ク諸稅ヲ輕フシ又「インコーム、テ  
 ヲキス」歲入ヲ輕フシ其他本政府ニ干スヘキモ  
 ノニシテ是マテ地方ノ擔任タリシ公務諸類ノ  
 爲メ多數ノ費金ヲ議可セラレタリ朕是等ノ處

置速ニ善ク菓ヲ結ヒ公益ニ利シ國帑ヲ富マシ  
 ムルヲ期ス  
 此度ノ議事期限ハ常例ノ會期ヨリ短ナレバ其  
 間決議アリタル事項大ニ國家ニ益スル事朕ノ  
 喜フ所ナリ  
 工場ニ於テ役スル婦女少年ヲ救フノ法律ハ  
 朕喜ンテ之ヲ許可セリ此法ハ只婦女少年ノ健  
 康ト教育トニ益スルノミナラス又工人ノ師弟  
 ト長徒トノ交際ヲ厚フスルニ至ルヘシ  
 蘇格蘭教會保護ノ法律モ亦之ヲ許可セリ教會



益榮へ朕臣民ノ幸福ヲ益サンコトヲ祈ル  
 英國教會ノ禮式ヲ改正スルノ法モ亦後來論争  
 ノ根ヲ絶スルヲ期ス  
 土地ニ干スル訴訟ノ權ヲ制節スルコトノ法、賣主  
 買主ニ干スル法、蘇格蘭ニ於テ土地賣買證券ノ  
 法及ヒ「リキユール」質飲料賣買ノ規則及ヒ公衆  
 ノ健康ニ干スル規則等皆善菓ヲ結ヒ國民ノ之  
 ニ謹遵センコトヲ祈ル  
 商法ニ干スル罪科ヲ定ムル法律實地施行ノ現  
 狀ヲ察スル爲メ別ニ事務官ヲ設ケ其事ヲ掌ラ

シムトモ未タ其業終ラス此度ノ議會ニ於テ之  
 ヲ議セシムルニ及ハス朕深ク之ヲ憾ム又英國  
 ニ於テ土地ノ賣買ヲ易カラシムルノ處置以爾  
 蘭及ヒ英國裁判法ノ改革及ヒ控訴審院設立ノ  
 處置等ハ議院ノ議事煩劇ニシテ未タ之ヲ議ニ  
 出スコトヲ決シ得サリシハ深ク惜ム所ナリ他  
 日再會ノ日速ニ議定アラントテ乞フ  
 朕諸君ノ各鄉國ニ歸リ化ヲ各地ニ布キ又天ノ  
 幸福ヲ諸君ニ下降センコトヲ祈ル

平山成一郎譯



千八百七拾五年二月六日英國議院ノ開式アリ當日女王陛下ノ勅語左ノ如シ

上下兩院ノ議員ニ告ク

諸君ノ復タ此ニ會スルヲ見且ツ朕カ議院ノ智識ト支持トヲ借ルノ期ニ至レルハ朕ノ尤モ悅フ所ナリ  
外國政府ハ皆平和ノ意ヲ表シ歐洲近時騷亂ノ事アルナシ該洲ノ久ク靜謐ナラントハ朕ノ疑ハサル所ニシテ其昇平ヲ維持固定スルハ朕ノ

常ニ盡カスル所タリ頃者戰時ノ慣習條例ヲ定メシカ爲メブリユキセル府ニ相集レル萬國公會モ其業ヲ了シ朕カ政府既ニ其報告書ヲ熟讀考究セリ然レモ朕上ハ該件ニ干スル事理ノ重緊ナルヲ考ヘ下ハ議事ノ際各國意見ノ背馳スルヲ甚ク到底一和ヲ期シ難キヲ察シテ以爲ラク他日復タ該件ノ再議ニ參スルハ畢竟無益ノ業タルヘシト因テ參會ノ請ヒテ辭セリ該件ニ干スル文書ハ近日悉ク諸君ニ下示スヘシマレミアルセラレノ大統領タリシ西班牙政府



頓ニ變シテ「フランスデザステユリ」同國王位ニ  
 即キ「アルフホンス」第十二世ト稱セリ我國モ亦  
 同盟各國ト共ニ此王國ノ回復ヲ公認スヘキヤ  
 否ノ件ハ方今政府專ラ之ヲ商議スルヲ以テ日  
 ナラス決議ニ至ルヘキヲ必スセリ朕ノ深ク冀  
 フ所ハ此巨大ナレモ不幸ナル舊國ノ速ニ鎮定  
 ニ至ルニ在リ  
 朕カ海軍及ヒ領事官等ハ常ニ力ヲ盡クシテ亞  
 弗利加東部黑奴賣買ヲ制止センヲ務ム其力  
 虚カラスシテ此人道ニ反シ兼テ貿易ノ道ヲ汚

カスカ如キ不正ノ賣買ヲ廢絶スルヲ得ヘキハ  
 朕固ク之ヲ信ス  
 支那日本ノ間ニ爭論ヲ生シ兵端ヲ開クノ勢ナ  
 リシカ幸ヒニシテ平定セリ朕カ在北京公使此  
 事ニ與カリテカアルヲ聞テ大ニ之ヲ嘉セリ  
 去歲ハ我藩屬地ニ於テ百般ノ進歩著ク一般ノ  
 幸安ヲ増セリ  
 「コートットル」ニ於テハ地方政府ノ基礎漸ク立  
 ナ昇平益々固シ朕カ保護ヲ被ル土民ノ種属モ亦  
 奴隸廢止ノ事ヲ諾セシモノアリ朕是ヲ以テト



スルニ後來該地ノミナラス他藩屬地ニ於テモ  
自由ノ理善ク行ハル、下日ヲ期ノ待ツヘシ  
ナタールニ於テハ嘗テ地方ノ一會長ニ言渡セ  
ル裁判ヲ覆審シ土民ノ状態ヲ察シ其歐人及ヒ  
朕カ政府トノ交際如何ンヲ檢セサルヲ得サリ  
キ此亞弗利加南部ノ土民管治ノ法ヲ寬仁善美  
ナラシムルノ方法ヲ求ムルハ朕ノ職掌ニシテ  
諸君朕ヲ輔ケテ此職ヲ盡サシメラレンハ朕ノ  
疑ハサル所ナリ、  
上諸件ニ干涉スル一切ノ文書ハ將ニ之ヲ諸君

ニ下示セントス  
「フヒシ」島王及ヒ首長等特別ニ請要スル條件  
モナク復タ其地ヲ朕ニ交付セントス朕其地ハ  
管ニ數多ノ蓄積アルノミナラス又我太平洋航  
船ノ爲メ至要タルヲ以テ其請ヲ聽セリ  
去歲ノ豐穰ハ大ニ朕カ東印度帝國諸州ノ幸福  
ニ資セリ該國ハ飢饉ノ災ヲ被リシモ此天福ニ  
ヨリ死者ノ數過多ナラス朕カ政府幸ニシテ此  
凶歲ヨリ生スヘカリシ大危難ヲ免レタリ  
下院ノ諸君ニ告ク朕既ニ命ヲ當該ノ官司ニ下



タシ速ニ今歳ノ定額金ヲ諸君ノ議ニ附セシメ  
ントス

上下兩院ノ諸君

我國帑ノ景況ハ滿意スルニ足ル去歳ハ我國ノ  
貿易前年ニ比スレハ稍衰ヘタリト雖モ歳ノ豐  
穰ト近時大イニ稅額ヲ減セシトニヨリ國民全  
体ノ幸安自カラ増シ隨テ日用ノ要品及ヒ政府  
ノ歳入ニ資スヘキ諸品ノ消費盛ンニ其額ヲ増  
セリ

方今以爾蘭ニテ其靜治ヲ計ルカ爲メ一時施行

スル假設或ハ格外ノ法則モ亦之ヲ議院ニ下ス  
ヘシ冀クハ熟議ノ上其一ニテ廢スルヲ得ンコ  
トヲ

前會ノ時已ヲ得スシテ延議セシ諸種ノ處分法  
モ之ヲ議院ニ下スヘシ其中尤モ重大ナルハ土  
地ノ賣買ヲ簡易ニスル法及ヒ裁判ノ制ヲ完全  
スルノ法ナリ

大都會中工人ノ居所ヲ清爽ナラシムルヲ公衆  
ノ健康ニ干スル法律ヲ改正スルヲ及ヒ川河惡  
水ノ健康ニ害スルヲ防クノ方法等モ同ク諸君



ノ議ニ附セントス  
在救會社ニ干スル法則ヲ改正センカ爲メ新ニ  
法案ヲ設ケタリ其主意ハ政府ノ無益ナル關涉  
ヲ廢除シ朕カ人民ノ善ク人生百般ノ危害ニ備  
ヘンカ爲メ蓄財セントスルノ美志ヲ助ケント  
スルニ在リ  
商船ニ干スル法則ヲ改正センカ爲メ設ケタル  
新法案モ亦院議ニ附スヘシ  
右ノ外檢察官ヲ置キテ以テ益朕カ民人ノ身ニ  
害スル暴行ヲ防キ諸罪犯ヲ防止スルノ法モ亦

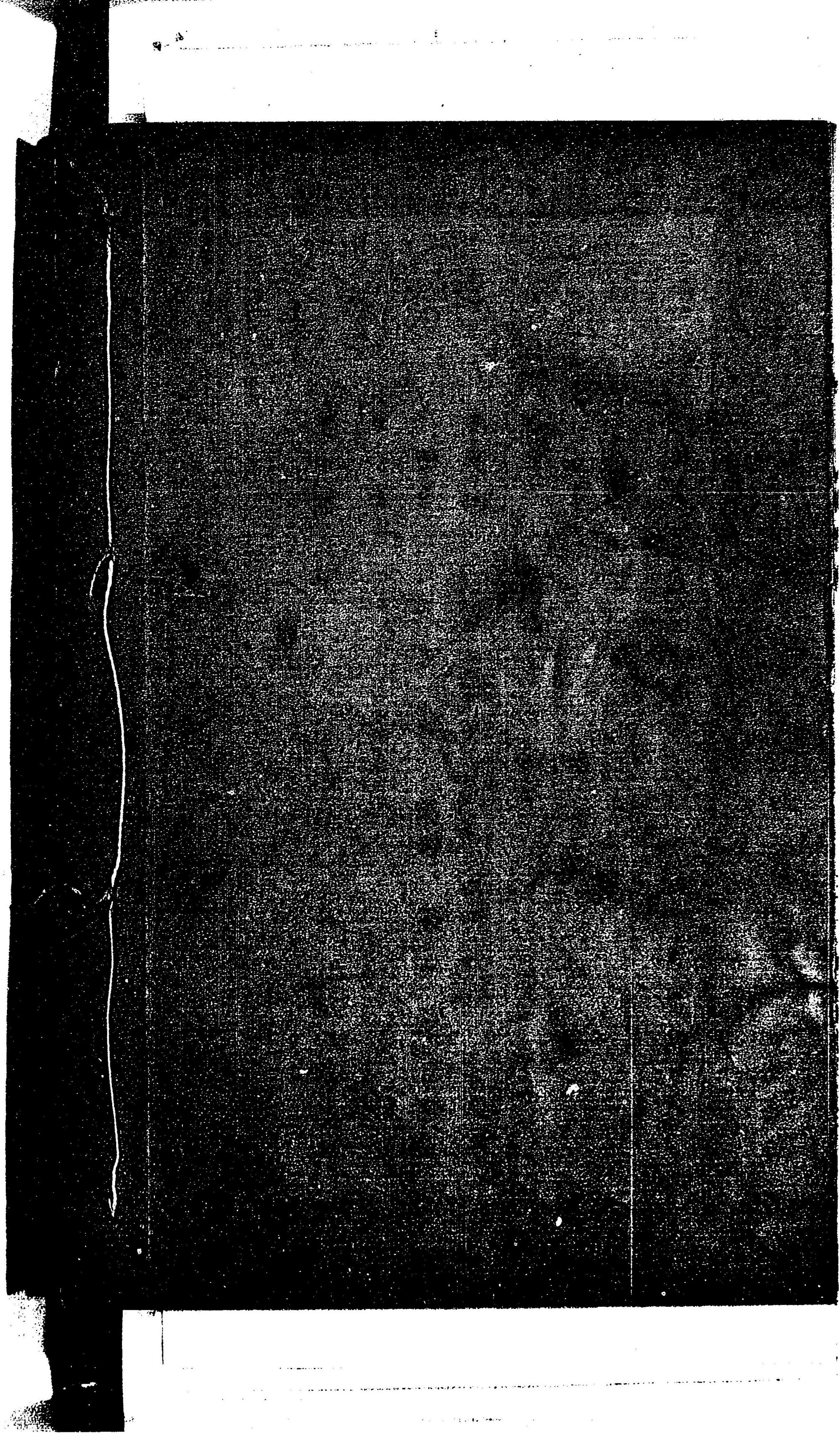
院議ニ下スヘシ  
朕別ニ理事官ヲ設ケテ商法上ノ輕罪ニ干スル  
法則ヲ查考セシムルヲ日アリト雖其報告書  
未タ成ラス冀クハ今會ノ閉ケサルニ及ンテ事  
實ニ適スヘキ處分法ヲ議定スルニ至ンテ  
田園佑作ノ法ヲ改正スル事モ亦諸君ノ議ニ附  
スヘシ  
諸君ノ善ク上文諸種ノ處分法及ヒ其他朕ヨリ  
下問スヘキモノヲ細議セラレンヲテ期望シ併  
セテ天ノ保護ニヨリ諸君ノ議事能ク朕カ民ノ



幸福ニ益シ其意ニ満ルニ足ランヲ祈ル

平山成一郎譯







W352  
5

300210-001-8

W352-5

澳国博覧会報告書 議院部

澳国博覧会事務局

2冊

1875

BAB-0006

